

表象文化史特論A

(春学期／2単位)
松友 知香子

●テーマ

ジャポニズムの諸相

●授業概要

日本文化の海外受容を理解し、地域共創力を養う。

●到達目標

具体的な芸術作品を手がかりとして、西欧の人々が日本文化をどのように理解し、造形化してきたかを理解できるようになる。

●授業計画

- 第1回 ジャポニズムとは
- 第2回 17 世紀オランダと東インド
- 第3回 17 世紀オランダ絵画と日本文化
- 第4回 19 世紀後半の日本文化の紹介:万国博覧会
- 第5回 19 世紀後半の日本文化の紹介:北斎
- 第6回 印象主義の画家と日本文化
- 第7回 印象主義の画家と〈きもの〉
- 第8回 ゴッホの生涯と日本文化
- 第9回 ゴッホと南フランス
- 第10回 絵画における装飾性
- 第11回 リヨンのテキスタイル・デザイン
- 第12回 テキスタイル・デザインと日本文化
- 第13回 日本人とジャポニズム：1930年代のポスター
- 第14回 日本人から見たジャポニズム
- 第15回 まとめ

●事前学習

日頃から芸術文化に親しむ事で、講義の理解が深まりますので、博物館などを訪れる機会を設けてください。また配布したテキストを事前に目を通すなど、各回約2時間の事前学習を要します。

●事後学習

テキストの箇所を読み直し、紹介した作品について解釈を深めておいてください。各回約2時間の事後学習を要します。

●成績評価

平常点 50%、レポート 50%

●テキスト

授業中に適宜配布する。

●参考書・参考資料等

- ・ジャポニズム学会編『ジャポニズムを考える』思文閣出版 2022 年
- ・深井晃子著『きものとジャポニズム』平凡社 2017 年

●備考

特になし

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:30～12:45 7520 研究室

表象文化史特論B

(秋学期／2単位)
松友 知香子

●テーマ

「黙示録」をめぐる芸術学

●授業概要

芸術作品において「ヨハネの黙示録」がどのように表象化され、近代絵画に如何に継承されたかを理解し、地域共創力を養う。

●到達目標

具体的な現代芸術を手がかりとして、「ヨハネの黙示録」が芸術家にどのような影響を与えたかを理解できるようになる。

●授業計画

- 第1回 黙示録とは
- 第2回 デューラーと北方ルネサンス
- 第3回 木版画連作の制作背景
- 第4回 木版画連作「ヨハネ黙示録」:「洪水」
- 第5回 木版画連作「ヨハネ黙示録」:「地震」
- 第6回 木版画連作「ヨハネ黙示録」:「四人の騎士」
- 第7回 木版画連作「ヨハネ黙示録」:「死の天使」
- 第8回 「黙示録」と近代の画家たち
- 第9回 近代絵画と黙示録:ルートヴィヒ・マイトナー
- 第10回 近代絵画と黙示録:ヴァシリー・カンディンスキー
- 第11回 近代絵画と黙示録:青騎士
- 第12回 近代絵画と黙示録:ブリュッケ
- 第13回 近代絵画と黙示録:ナタリア・ゴンチャローヴァ
- 第14回 近代絵画と黙示録:ウィニフレッド・ナイツ
- 第15回 まとめ

●事前学習

日頃から芸術文化に親しむ事で、講義の理解が深まりますので、博物館などを訪れる機会を設けてください。配布したテキストを事前に目を通すなど、各回約2時間の事前学習を要します。

●事後学習

テキストの箇所を読み直し、紹介した作品について解釈を深めておいてください。各回約2時間の事後学習を要します。

●成績評価

平常点 50%、レポート 50%

●テキスト

授業中に適宜配布する。

●参考書・参考資料等

- ・下村耕二著『アルブレヒト・デューラーの芸術』中央公論美術出版、1997
- ・Renate Ulmer, *Passion und Apokalypse : Studien zur biblischen Thematik in der Kunst des Expressionismus*, Peter Lang, 1992
- ・Sacha Llewellyn, *Winifred Knights (1899-1947)*, Lund Humphries Pub Ltd 2016

●備考

特になし

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:30～12:45 7520 研究室

言語特論A

(春学期／2単位)

濱田 英人

●テーマ

認知メカニズムから人間が環境をどのように把握するかについて研究を深めることで地域共創力を養う。

●授業概要

本特論では、ことばと認識について知覚作用と認識作用の視点から考察する。具体的には知覚対象の認識から言語化に至る過程でどのような知覚操作が関わっているのかについて理解を深める。我々は、対象物を知覚することそれは目の網膜から脳内に取り込まれることで表現(representation)が生じ、それを言語化の対象としている。このことから言語は脳内現象であり、知覚対象の言語化には認知主体の一定の認知処理が必然的に関与している。その認知処理のメカニズムを明らかにすることによって言語の本質について理解を深める。

●到達目標

人間の知覚と認識のメカニズムについて理解を深める。

●授業計画

- 第1回 知覚と認識のメカニズム
- 第2回 メタ認知
- 第3回 人間の基本的認知能力
- 第4回 人間の概念形成のメカニズム
- 第5回 Figure/Ground 認知と言語
- 第6回 言語の意味の在り方
- 第7回 アフォーダンス理論
- 第8回 主体化
- 第9回 Perceptual Symbol Systems
- 第10回 空間認知と言語
- 第11回 文法化
- 第12回 人間の空間認知と言語
- 第13回 engaged cognition/disengaged cognition
- 第14回 言語の身体性
- 第15回 まとめ

●事前学習

予め指定された文献を読み、疑問点を整理して授業に参加する。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

学習した概念の観点から各自の興味のある言語現象について考察する。
各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表(20%)、研究レポート(80%)。
講評をお知らせ配信で伝えます。

●テキスト

- ・Barsalou, L. W. (1999) “Perceptual Symbol Systems,” Behavioral and Brain Science 22 : 577-660.
- ・濱田英人(2016)『認知と言語－日本語の世界・英語の世界』開拓社, 東京
- ・本多 啓(2005)『アフォーダンスの認知意味論』東京大学出版会
- ・Langacker, Ronald W, (2008) Cognitive Grammar : A Basic Introduction. Oxford : Oxford University Press.
- ・Veenman, M. V. J., Bernadette, H. A. M, Van Hout - Wolters, and P. Affellerbach. (2006) “Metacognition and Learning : Conceptual and Methodological Consideration.” Metacognition Learning 1. 3-14

●参考書・参考資料等

授業の中で関連分野の文献について適宜指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

面談希望の場合は hamada_hideto@kyi.biglobe.ne.jp に連絡してください。

言語特論B

(秋学期／2単位)

濱田 英人

●テーマ

人間の世界の切り取り方とそれを表示する言語的装置について理解を深め、言語共同体の事態把握の在り様の違いを研究することで地域共創力を養う。

●授業概要

本特論では、前期の基礎研究を踏まえて、言語話者の事態認識の在り様と言語化の関係を具体的な言語現象を考察することによって明らかにする。具体的には、言語話者が基本的な認知能力を活性化して世界をどのように切り取っているかが個別言語を特徴付けていることを日本語と英語の言語現象を対照的に考察することによって明らかにする。

●到達目標

人間の事態認識と言語化の関係、また個別言語を特徴付ける根源的基盤について理解を深める。

●授業計画

- 第1回 脳のメカニズム（能動態、受動態、中動態）
- 第2回 日本語の「被害受け身」のメカニズム
- 第3回 英語の受動態
- 第4回 日本語の「V テイル」と英語の ‘ be V-ing ’
- 第5回 日本語の「た」の意味論
- 第6回 英語のテンス
- 第7回 日本語の「類別詞」の発達
- 第8回 日本語の「擬態語」の根源的基盤
- 第9回 英語の「可算名詞」「不可算名詞」の原理
- 第10回 存在表現の日英比較
- 第11回 知覚・認識と言語の語順
- 第12回 事態内参与者の言語化・非言語化のメカニズム
- 第13回 日英語の知覚構文
- 第14回 左脳・右脳の機能と言語
- 第15回 まとめ

●事前学習

予め指定された文献を読み、疑問点を整理して授業に参加する。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

学習した言語現象を前期に学んだ認知操作の視点から考察する。
各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表(20%)、研究レポート(80%)。
講評をお知らせ配信で伝えます。

●テキスト

- ・Corballis, P. M. (2003) ‘Visuospatial processing and the right hemisphere interpreter,’ Brain and Cognition 53, 171 - 176, Elsevier.
- ・Gazzaniga, M. S. (2000) Cerebral specification and Interhemispheric communication - Does the corpus callosum enable the human condition? Brain 123, 1293 - 1326, Oxford University Press. Oxford.
- ・濱田英人(2016)『認知と言語－日本語の世界・英語の世界』開拓社, 東京
- ・Hind, John (1986) Situation vs. Person Focus. くろしお出版、東京
- ・井川壽子(2012)『イベント意味論と日英語の構文』くろしお出版、東京

●参考書・参考資料等

授業の中で関連分野の文献について適宜指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

面談希望の場合は hamada_hideto@kyi.biglobe.ne.jp に連絡してください。

異文化コミュニケーション特論A (春学期／2単位) 久野 弓枝

●テーマ

日本語教師の専門性の検討。

●授業概要

日本語学習者が多様化し、日本語教育に関する専門性を有する人材の必要性が指摘されている。この授業では、日本語教育における今までの教師研究の展開を整理し課題を明らかにする。

●到達目標

日本語教師研究の方法論について理解し日本語教師の専門性について検討できるようになる。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教師と教師の専門性に関する研究の展開
- 第3回 日本語教師の専門性の捉え方という問題
- 第4回 日本語教師の役割をめぐる言説の変遷
- 第5回 学会誌『日本語教育』に見る日本語教師養成・研修
- 第6回 日本語教師の公的資格制度創設をめぐる近年の動向
- 第7回 専門性の三位一体モデルの提案
- 第8回 専門家としての日本語教師と省察
- 第9回 三位一体ワークショップの提案
- 第10回 対立したまま理解すること
- 第11回 新人ノン・ネイティブ教師とのピア・カンファレンス
- 第12回 大学の日本語教員の専門性についての考察
- 第13回 日本語教師の越境的学习
- 第14回 「同僚性」から生み出される新たな日本語教師性
- 第15回 まとめ

●事前学習

レポーターは自分の担当分のレジュメを作成すること。レポーター以外の受講者も疑問点等をまとめておくこと。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業での議論や興味を持ったことをさらに調べてまとめること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点（授業の準備、発表内容）50%、レポート50%で評価する。
レポートについては最終回に講評を行う。

●テキスト

館岡洋子編（2021）『日本語教師の専門性を考える』ココ出版

●参考書・参考資料等

- 有田佳代子（2016）『日本語教師の「葛藤」』ココ出版
- 飯野玲子（2017）『日本語教師の成長』ココ出版
- 牛窪隆太（2021）『教師の主体性と日本語教育』ココ出版
- 香月裕介（2022）『日本語教師の省察的実践』春風社

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、研究室 7717 研究室で対応します。

事前にメール等で連絡をお願いします。

y_kuno@sapporo-u.ac.jp。

異文化コミュニケーション特論B (秋学期／2単位) 久野 弓枝

テーマ

日本語教育における実践のフィールドと質的研究。

●授業概要

日本語教育における質的研究について学ぶ。具体的には日本語教育において質的研究が行われるようになった背景と目指していること、質的研究におけるパラダイムと研究方法、質的研究の実践例について検討する。また、質的研究を進める上で重要な概念であるリフレキシビティについても考察する。

●到達目標

日本語教育における質的研究の有効性について理解し、言語教育や言語学習のあり方と課題について探求できるようになる。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本語教育における質的研究の可能性と挑戦
- 第3回 質的研究の認識論
- 第4回 実践研究から考える質的研究の意義
- 第5回 「声」を聴くということ
- 第6回 リフレキシビティ
- 第7回 ライフストーリーという研究方法
- 第8回 ライフストーリーを聞く手順
- 第9回 エスノグラフィーという研究方法
- 第10回 エスノグラフィーの研究手法
- 第11回 ケーススタディーという研究方法
- 第12回 ケーススタディーの研究プロセス
- 第13回 M-GTA という研究方法
- 第14回 M-GTA の研究プロセス
- 第15回 まとめ

●事前学習

レポーターは自分の担当分のレジュメを作成すること。レポーター以外の学生も疑問点等をまとめておくこと。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業での議論や興味を持ったことをさらに調べてまとめること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点（授業の準備、発表内容）50%、レポート50%で評価する。
レポートについては最終回に講評を行う

●テキスト

八木真奈美・中山亜紀子・中井好男（2021）『質的言語教育研究を考えよう』ひつじ書房

●参考書・参考資料等

- ・北出慶子・嶋津百代・三代淳平（2021）『ナラティブでひらく言語教育』新曜社
- ・桜井厚（2002）『インタビューの社会学ーライフストーリーの聞き方』せりか書房
- ・館岡洋子（2015）『日本語教育のための質的研究 学習・教師・教育をいかに描くか』ココ出版

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、研究室 7717 研究室で対応します。

事前にメール等で連絡をお願いします。

y_kuno@sapporo-u.ac.jp。

身体文化特論A

(春学期／2単位)

瀧元 誠樹

●テーマ

地域共創の担い手となるにあたり有益な思考力を身につける一つのテーマとして「共にある」をとりあげ考察する。

●授業概要

西谷修の『夜の鼓動にふれる』を主なテキストとし、受講者とともに輪読しながら、人間の在り方について考察する。

「テロ」との戦争が標榜される現代社会において、この戦争が従来のもものと違うところは、「主権」の認められない「国家」との戦争が目されているところにあるだろう。それは「非対称的戦争」とも言われている。むしろ「戦争」は秩序や理性の振る舞いなどではなく、無秩序や非理性の発露する暴力の闇がうごめく世界である。その世界を西谷 修は「夜」と表現していた。

また、テクノロジーとくに医科学の領域での進展は、従来の治療や延命処置を超えて、「死ぬことができない」世界の到来をまねいている。ここにも「非対称的」な生と死の関係が見出される。西谷のいうところの「ワンダーランド」、つまり「歴史の運動が輪を閉じてひとつになり、巨大な混沌を経てあらゆる差異や階層が組み替えられようとする世界」において、人間の在り方はどのようにとらえられるのか考えていく。

●到達目標

西谷修の紹介する「夜」「非一知」「共にある」の概念を理解し、人間や人間関係について思想的考察ができるようになる。

●授業計画

- 第1回 西谷修について
- 第2回 「現代思想」としての「戦争論」
- 第3回 世界戦争の時代
- 第4回 戦争の全体性
- 第5回 〈夜〉に目覚める
- 第6回 〈光〉の文明の成就
- 第7回 戦争の近代
- 第8回 世界戦争
- 第9回 ヘーゲルと西洋
- 第10回 露呈する〈無〉
- 第11回 〈世界〉の崩壊
- 第12回 〈未知〉との遭遇
- 第13回 アポカリプス以後
- 第14回 「テロとの戦争」について
- 第15回 まとめ：共に在るとはどういうことか

●事前学習

テキストを読み、用語解説・要約・私見考察によるレジュメを作成して授業準備をする。

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業内容を振り返り、ノートや参考文献を読み、理解を深める。

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点50%とレポート50%。レポートの講評は最終回に行う。

●テキスト

西谷 修『夜の鼓動にふれる』ちくま学芸文庫

●参考書・参考料等

- ・西谷 修『私たちはどんな世界を生きているか』講談現代新書
- ・西谷 修『ニューノーマルな世界の哲学講義』AKTER PRESS
- ・西谷 修『戦争論』講談社学術文庫
- ・西谷 修『理性の探究』岩波書店
- ・西谷 修『不死のワンダーランド』講談社学術文庫

●備考

特記事項なし。

●オフィスアワー

講義期間中の昼休み、研究室にて対応する。

身体文化特論B

(秋学期／2単位)

瀧元 誠樹

●テーマ

地域共創の担い手となるにあたり有益な思考力を身につける一つのテーマとして「劈かれるからだ」をとりあげ考察する。

●授業概要

竹内敏晴の『からだが生きる瞬間 竹内敏晴と語り合った四日間』を主なテキストとし、受講者とともに輪読しながら、竹内の思想にふれながら「からだのあり方」について考察する。

演出家・教育者・思想家であった竹内敏晴氏が語られてきた「ことば」が、「竹内敏晴の『からだと思想』というセレクションに編集され、2013年9月から2014年6月にかけて刊行された。哲学者である木田 元の言葉によれば、竹内のそれは『『からだ』によって裏打ちされた『ことば』だ」という。戦前から戦後の動乱期、さらに学生運動や「アングラ」、東西冷戦の終結とバブル崩壊といった激動の社会変化の中で、私たちのからだはことばはどうなっていたのかを語る竹内の「ことば」について考えていく。

●到達目標

竹内敏晴のいう「劈く」の概念を理解し、「からだの生きる瞬間」について自他の関係を身心の在り方から考察できるようになる。

●授業計画

- 第1回 竹内敏晴について
- 第2回 「からだという問題への気づき」
- 第3回 「から、だ」ということ
- 第4回 「分割」と「流れ」
- 第5回 「他者のあらわれ方」
- 第6回 「じか」ということ
- 第7回 「呼びかける」ということ
- 第8回 「スポーツの中のエクスターズ」
- 第9回 「人間の実在と純粋経験」
- 第10回 「間身体的な響き合い」
- 第11回 「個」という概念も翻訳である
- 第12回 日本人の人間関係に「あなたと私」は存在するか
- 第13回 「主客身分の状態のまま Du を呼び出す」
- 第14回 「からだの反乱」
- 第15回 まとめ：劈かれるからだとはどういうことか

●事前学習

テキストを読み、用語解説・要約・私見考察によるレジュメを作成して授業準備をする。

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業内容を振り返り、ノートや参考文献を読み、理解を深める。

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点50%とレポート50%。レポートの講評は最終回に行う。

●テキスト

竹内敏晴他『からだが生きる瞬間 竹内敏晴と語り合った四日間』

●参考書・参考資料等

- ・竹内敏晴『ことばが劈かれるとき』ちくま文庫
- ・竹内敏晴『癒える力』晶文社
- ・竹内敏晴『思想するからだ』晶文社
- ・今野哲男『竹内敏晴』言視舎

●備考

特記事項なし。

●オフィスアワー

講義期間中の昼休み、研究室にて対応する。

日本文学特論ⅠA

(春学期／2単位)

荒木 奈美

●テーマ

夏目漱石『文学論』を読む－文学は人と社会を救うか－

●授業概要

文学は、人間を描き社会を描き、言葉にしがたい思いを物語ることで、どの時代においてもたくさんの人たちの心を潤してきました。漱石は『文学論』の中で、そんな文学の持つ豊かな意味について、当時の心理学や哲学、社会学などの知識を総動員して独自の切り口で論じています。難解とされ敬遠されてきた漱石の文学論をわかりやすく解説した山本貴光『文学問題(F+f)』をテキストとして、文学はどのようにして人間理解や社会に役立つか、その有効性を正面から問い直してみたいと考えています。

●到達目標

夏目漱石『文学論』をきっかけにして、読書行為が自分以外の他者や社会と繋がり自己の精神的成長に結びついていくことを、経験から学ぶ。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学作品の内容は「F+f」である
- 第3回 文学作品の内容は変化する
- 第4回 文学作品の内容の特徴
- 第5回 読者に幻惑を生じさせる文学技法
- 第6回 集合的F
- 第7回 夏目漱石『文学論』まとめ
- 第8回 実践編 短編小説を読む
今村夏子『むらさきのスカートの女』
- 第9回 討論 F+fはどう描かれたか
- 第10回 実践編 短編小説を読む
村田沙耶香『コンビニ 人間』
- 第11回 討論 隠された情緒
- 第12回 実践編 短編小説を読む
川上未映子『愛の夢とか』
- 第13回 討論 fの交流
- 第14回 まとめ
- 第15回 後期に向けて討論

●事前学習

次週扱う文化作品を視聴し、読書レポートを書いてくる。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業通して考えたことなどを授業レポートとしてまとめておく。
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業ごとに指示する

●テキスト

山本貴光『文学問題(F+f)』(幻戯書房 2017)

夏目漱石『文学論』(岩波文庫)

後半取り上げるテキストについては、受講者の興味関心に合わせて変わることがある。

●参考書・参考資料等

参加者の話し合いの内容に応じて、参考資料を授業ごとに準備・配布する。

●備考

特になし

●オフィスアワー

毎週火曜日 12:30-12:50 (要事前連絡) 7510 研究室。

日本文学特論ⅠB

(秋学期／2単位)

荒木 奈美

●テーマ

詩とは何か－詩人の生きざまから言葉にしがたい思いを救う－

●授業概要

日本文学特論ⅠBで学んだ文学の効用に対する自己の実感を踏まえて、ⅠBでは言葉になる前の世界にうごめく「モヤモヤ」した感情や情動のありかを表現する詩という形態に着目します。吉増剛造『詩とは何か』を出発点として、自分の中にあるまだ気づいていない無意識の世界を泳ぎます。

●到達目標

吉増剛造『詩とは何か』をきっかけにして、読書行為が自分以外の他者や社会と繋がり自己の精神的成長に結びついていくことを、さらに経験から学ぶ。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 詩のほんとうの「しぐさ」
- 第3回 根源の詩人たち
- 第4回 純粋な「音」のままで立ち上がる詩
- 第5回 詩における「若さ」「歪み」
- 第6回 根源的なハーモニーへ
- 第7回 吉増剛造『詩とは何か』まとめ
- 第8回 実践編 現代散文詩を読む
吉増剛造作品を読む
- 第9回 討論 根源の思いを表現するということ
- 第10回 実践編 最果タヒ作品を読む
- 第11回 討論 メタフィクションという方法
- 第12回 実践編 不思議/wonderboyを聴く
- 第13回 討論 オートエスノグラフィとしてのポエトリリーディング
- 第14回 まとめ
- 第15回 改めて文学とは何か 討論

●事前学習

次週扱う文化作品を視聴し、読書レポートを書いてくる。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業通して考えたことなどを授業レポートとしてまとめておく。
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業ごとに指示する。

●テキスト

吉増剛造『詩とは何か』(講談社現代新書 2021)

後半取り上げるテキストについては、受講者の興味関心に合わせて変わることがある。

●参考書・参考資料等

参加者の話し合いの内容に応じて、参考資料を授業ごとに準備・配布する。

●備考

特になし

●オフィスアワー

毎週火曜日 12:30-12:50 (要事前連絡) 7510 研究室。

日本文学特論Ⅱ A

(春学期／2単位)

田中 幹子

●テーマ

国際的に評価されている日本文学の代表である源氏物語を学ぶことで国際社会に通用する視野をもつことを目指す。

●授業概要

源氏物語の各巻の内容を把握した上で、その巻の核となる歌を取り出し分析する。

●到達目標

源氏物語の主要な場面での和歌をじっくり分析することで新たな読解を試みる。

●授業計画

第1回 『源氏物語』について概論

第2回 桐壺巻 更衣の和歌・桐壺帝の和歌

第3回 若紫巻 光源氏の和歌・尼君の和歌

第4回 紅葉賀巻 光源氏の和歌・藤壺の和歌

第5回 花宴巻 光源氏の和歌・朧月夜の和歌

第6回 葵 巻 光源氏の和歌・若紫の和歌

第7回 賢木巻 光源氏の和歌・六条御息所の和歌

第8回 須磨巻 光源氏の和歌・紫の上の和歌・藤壺の和歌

第9回 明石巻 光源氏の和歌・明石の上の和歌

第10回 濡標巻 光源氏の和歌・朱雀帝の和歌

第11回 松風巻 光源氏の和歌・冷泉帝の和歌

第12回 薄曇巻 光源氏の和歌・明石君の和歌

第13回 絵合巻 光源氏の和歌・秋好中宮の和歌

第14回 源氏物語の今後の展開

第15回 源氏物語の今後の展開と総括

●事前学習

毎回、その時の和歌について事前に調べ、資料をつくる。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

学んだことをA4一枚にまとめ、理解したかを確認する。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

テスト60%、発表の資料作成、プレゼンを40%。

テストを返却して復習する。

●テキスト

必要箇所はコピー配付する。

●参考書・参考資料等

新編 日本古典文学全集（源氏物語 1・2）

●備考

特になし。

●オフィスアワー

水曜日昼休み 於研究室。

日本文学特論Ⅱ B

(秋学期／2単位)

田中 幹子

●テーマ

絵本を多角的に分析する。

●授業概要

毎回、担当者を決め、絵本を一冊読み聞かせをして、作家の分析や言葉の分析、絵の分析をおこなう。

●到達目標

絵本を絵と文の相乗効果の作品として捉え、根拠を持って分析できるようにする。

●授業計画

第1回 絵本を科学的に分析する方法を学ぶ

第2回 絵本の分析 ペレのあたらしいふく を分析する

第3回 絵本の分析 もりのこびとたち を分析する

第4回 担当者による絵本よみかせと分析 好きな絵本

第5回 絵本の分析 てぶくろ 1960年版 民族自立と絵本

第6回 絵本の分析 てぶくろ 1974年版 1960年版との比較

第7回 絵本の分析 おおきなかぶ 絵本と教科書

第8回 絵本の分析 スイミー 絵本と教科書

第9回 絵本の分析 ぐりとぐら 食えること分け合うこと

第10回 担当者による読み聞かせと分析 テーマを決める

第11回 絵本の分析 かばくん 動物園と動物の関係

第12回 絵本の分析 キリンのくる日 動物園と動物の関係

第13回 絵本の分析 もりのおくのおちゃかいへ 動物と人間の距離

第14回 3歳児のよみとりと小学生のよみとりの差

第15回 3世代により継がれる絵本の魅力について

●事前学習

今まで触れてきた絵本をリストアップし、それぞれの内容やどのような感想を持ったのかをまとめる。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

学んだことをA4一枚にまとめ、理解したかを確認する。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

毎回、小レポートを提出。最終講義までに授業でとりあげない絵本を1冊分析してレポートにする。

●テキスト

作品の取り上げる部分をプロジェクターで見せる。

●参考書・参考資料等

絵本の力、松居直氏の著作

●備考

特になし。

●オフィスアワー

水曜日昼休み 於研究室。

日本語特論A

(春学期／2単位)
杉山 暦

●テーマ

コーパスを用いた言語研究の方法論を習得する。

●授業概要

主として言語研究を目的に、書き言葉や話し言葉などを大規模に、特定の基準に沿って網羅的に収集し、コンピュータ上で処理できるデータとして保存したものを「コーパス」と呼ぶ。また、コーパスに基づいて言語の諸特性を観察、分析する研究実践を「コーパス言語学」と呼ぶ。

本講義では、コーパス及びコーパス検索に関わる知識を身に付け、コーパスを用いた言語研究の方法論を学ぶ。毎回、必ずパソコンを持ってくること。

●到達目標

コーパスを用いた言語研究ができるようになる。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コーパスとは？
- 第3回 現代日本語書き言葉均衡コーパス
- 第4回 中納言の検索単位
- 第5回 基礎的な検索
- 第6回 中納言の検索条件
- 第7回 応用的な検索
- 第8回 第2回～第7回のレビュー
- 第9回 頻度表を作る
- 第10回 特定の表現を抽出する
- 第11回 レジスターの比較
- 第12回 第9回～第12回のレビュー
- 第13回 ミニ研究
- 第14回 ミニ発表会
- 第15回 まとめ

●事前学習

教科書の該当箇所を読み、疑問点をまとめておく。各回、約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

教科書の該当箇所を改めて読み、疑問点が解消されているか確認する。各回、約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%（授業に対する参加態度、発表内容など）

●テキスト

中俣尚己（2021）『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房。

●参考書・参考資料等

適宜、指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

毎週(火)16:30～17:30、中央棟5階7503

日本語特論B

(秋学期／2単位)
杉山 暦

●テーマ

コーパスを用いた言語研究の方法論を習得する。

●授業概要

主として言語研究を目的に、書き言葉や話し言葉などを大規模に、特定の基準に沿って網羅的に収集し、コンピュータ上で処理できるデータとして保存したものを「コーパス」と呼ぶ。また、コーパスに基づいて言語の諸特性を観察、分析する研究実践を「コーパス言語学」と呼ぶ。

本講義では、コーパス及びコーパス検索に関わる知識を身に付け、コーパスを用いた言語研究の方法論を学ぶ。毎回、必ずパソコンを持ってくること。

●到達目標

コーパスを用いた言語研究ができるようになる。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究事例①「てある」
- 第3回 「てある」のレジスター調査
- 第4回 研究事例②「としても」「にしても」
- 第5回 「だけに」「だけあって」の類義分析
- 第6回 研究事例③「形容詞＋思う」「形容詞＋感じる」
- 第7回 「形状詞「残念」＋思う」の類義分析
- 第8回 動詞の類義分析
- 第9回 研究事例④「美しい」「きれいな」
- 第10回 類義語における辞書の記述とコーパスの検索結果の比較
- 第11回 中納言のその他コーパス
- 第12回 日本語日常会話コーパスを用いたことばの性差
- 第13回 ミニ研究
- 第14回 ミニ発表会
- 第15回 まとめ

●事前学習

教科書の該当箇所を読み、疑問点をまとめておく。各回、約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

教科書の該当箇所を改めて読み、疑問点が解消されているか確認する。各回、約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%（授業に対する参加態度、発表内容など）

●テキスト

中俣尚己（2021）『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房。

●参考書・参考資料等

適宜、指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

毎週(火)16:30～17:30、中央棟5階7503

日本文学史特論A

(春学期／2単位)

田中 幹子

●テーマ

古代から中世にかけての主要な作品を歌を中心に読み、日本独自の文字文化を国際的視野から理解する。

●授業概要

文学史の流れに沿って、万葉集から新古今和歌集までの作品を文化的背景を考えながら読む。

●到達目標

文学史の知識を具体的な作品で得るとともに、原文で読む力をつける。

●授業計画

第1回 万葉仮名の説明・万葉集の諸本の説明

第2回 万葉集巻1の和歌を詠む

第3回 万葉集巻20の和歌を詠む

第4回 万葉集の歌風のまとめ

第5回 古今集の仮名序の説明

第6回 古今集の詠み人知らず歌を詠む

第7回 古今集の六歌仙歌を詠む

第8回 古今集の撰者歌を詠む

第9回 在原業平の人生を学ぶ

第10回 伊勢物語の初段を読む

第11回 伊勢物語の芥川を読む

第12回 伊勢物語の狩の使いを読む

第13回 伊勢物語の東下りを読む

第14回 伊勢物語のむさしあぶみ、鶉の段を読む

第15回 半年の講座のまとめ

●事前学習

学部時代、高校時代の万葉集・古今集・伊勢物語の資料や国語便覧を読み返すこと。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業でとり上げた作品を原文で読めるように復習する。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

作品ごとにテスト70%、万葉集・古今集・伊勢物語についてレポート30%。 テスト、レポートを返却して復習。

●テキスト

毎回配布。

●参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

水曜日昼休み 於研究室。

日本文学史特論B

(秋学期／2単位)

渡辺 さゆり

●テーマ

日本の古典芸能「文楽」について主要な作品を読み、鑑賞法を学びながら、地域共創に役立つ教養を身に付ける。

●授業概要

「文楽」の起源や歴史を学んだ上で『曽根崎心中』『菅原伝授手習鑑』を読み作品を鑑賞しながら「文楽」の魅力について話し合う。

●到達目標

「文楽」の世界で演じられた作品を読み、鑑賞することで、日本古典芸能を鑑賞する楽しさを学び、魅力について理解を深める。

●授業計画

第1回 「文楽」とは何か～文楽の鑑賞法

第2回 人形浄瑠璃の起源と歴史

第3回 「三業」について

第4回 三浦しをん『あやつられ文楽鑑賞』～三味線弾き・大夫

第5回 三浦しをん『あやつられ文楽鑑賞』～人形遣い

第6回 近松門左衛門と『曽根崎心中』について

第7回 『曽根崎心中』を読む

第8回 『曽根崎心中』を読む～道行

第9回 『曽根崎心中』を鑑賞する

第10回 『菅原伝授手習鑑』について

第11回 松王丸・梅王丸・桜丸

第12回 「車曳」を読む

第13回 「車曳」を鑑賞する

第14回 人形遣いの師匠と弟子

第15回 まとめ～「文楽」の鑑賞法について振り返る

●事前学習

近世上方文化の歴史について予習すること。

毎回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業で取り上げた内容や作品についてノートを整える。

各回1時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表や発言内容を中心とした平常点と期末レポートによって総合的に評価する。

●テキスト

毎回プリントを配布

●参考書・参考資料等

随時指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、教室内で対応します。

比較文化特論 I A

(春学期／2単位)
張 偉雄

●テーマ

異文化コミュニケーションとしての翻訳

●授業概要

異文化コミュニケーションとしての翻訳は、文化を越えた文化事象を考察するものである。講義では「翻訳は単なる語彙の置き換えではなく、異なる二つの言語体系、異文化間のコミュニケーションである」ことを考察し、翻訳研究の対象、方法、目的、および研究者のありべき姿勢について論じる。

●到達目標

翻訳研究の対象、方法、理論の把握

●授業計画

- 第1回 研究概説
- 第2回 翻訳概説
- 第3回 翻訳者の主体性
- 第4回 翻訳者の権限
- 第5回 翻訳者の仕事
- 第6回 翻訳者に必要な見地
- 第7回 翻訳の原理
- 第8回 「意味」とは何か
- 第9回 「意味」の等価
- 第10回 二つの言語観
- 第11回 テキストの種類
- 第12回 コード制約
- 第13回 文学の翻訳
- 第14回 美的言語
- 第15回 まとめ

●事前学習

教科書の予習、問題意識を持つこと
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

講義内容の復習、課題の完成
各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

期末レポートによる。

●テキスト

平子義雄 『翻訳の原理』
大修館書店, 1999

●参考書・参考資料等

川本 皓嗣 井上 健 編『翻訳の方法』
東京大学出版会, 1997

●備考

●オフィスアワー

木曜日 12:10～13:00 研究室

比較文化特論 I B

(秋学期／2単位)
張 偉雄

●テーマ

翻訳研究の実践について

●授業概要

比較文化研究の方法の一つとして「翻訳研究」がある。これは文化間の交流、受容、変容を考察する有効な手段である。翻訳の変容や「曲解」を指摘することによって、異文化に位置する原作者、翻訳者、或いはその両文化に位置する読者層に対する認識を深めていくことができ、異文化理解につながるものである。本講義ではイギリスの東洋学者、翻訳者である Arthur Waley を中心に、翻訳を通して異国の文化が受容され、変容されていく実態を分析してみる。

●到達目標

「翻訳研究」を通して異国文化が受容され、変容されていく実態に関する理解を深める。

●授業計画

- 第1回 比較文学の翻訳研究について
- 第2回 Arthur Waley の仕事
- 第3回 Arthur Waley の白居易接近
- 第4回 Brighton から「ト来敦」へ
- 第5回 注目すべき原作の「言外の意」
- 第6回 「谷行」と「黄鳥」の英訳
- 第7回 冒険旅行への変容
- 第8回 Manfred の日本語訳について
- 第9回 翻訳による『自助論』の伝播
- 第10回 漢文訓読と翻訳
- 第11回 現代の翻訳理論と方法について
- 第12回 明治初期の翻訳について
- 第13回 明治初期の翻訳対象
- 第14回 明治初期の翻訳手法
- 第15回 まとめ

●事前学習

教科書の予習、問題意識を持つこと。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

講義内容の復習、課題の完成
各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

期末レポートによる。

●テキスト

張 偉雄『比較文学考』: 白帝社, 2012

●参考書・参考資料等

亀井俊介 (編集)『近代日本の翻訳文化』: 中央公論社, 1994

●備考

●オフィスアワー

木曜日 12:10～13:00 研究室

比較文化特論Ⅱ A

(春学期／2単位)
小笠原 はるの

●テーマ

「自己啓発化」する社会における「自己」の探究

●授業概要

ひとつのジャンルを形成しているようにみえる「自己啓発」という分野の本がたどってきた流れを追いながら、近代日本やアメリカ社会における「自己啓発メディア」の世界観と思想を読み解く。「自己啓発」という概念がどのように人々の生活に入り込み、「自己とは何か」を考えさせられる社会となったのかを多角的に考察する。

●到達目標

自己啓発の概念を考察することで、個人の価値観と社会との関係性を文化的に考察できるようになる。

●授業計画

- 第1回 はじめに：「自己啓発」とは何か
- 第2回 自己啓発思想の誕生
- 第3回 宗教的なもの、封建的なもの
- 第4回 アメリカ発自助努力系自己啓発本の系譜
- 第5回 日本発自助努力系自己啓発本の系譜
- 第6回 引き寄せ系自己啓発本の系譜
- 第7回 「インサイド・アウト」の思想
- 第8回 資本主義の欲望
- 第9回 ポジティブ・シンキングから自己責任へ
- 第10回 『君たちはどう生きるか』書簡形式の自己啓発
- 第11回 『森の生活』日記形式の自己啓発
- 第12回 「ピーター・パン戦略」スポーツと自己啓発
- 第13回 『アート・スピリット』アートと自己啓発
- 第14回 「ポピュラー哲学」自己啓発としての哲学の受容
- 第15回 まとめ

●事前学習

テキストを読み、疑問点を抽出しておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

ディスカッションで考察したことについてまとめておくこと。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点 50%

毎回の授業でのプレゼンテーション 50%。

プレゼンテーションについてはそのつど授業内で講評する。

●テキスト

下記から抜粋予定。ミシェル・フーコー『自己のテクノロジー』、慎改康之『ミシェル・フーコー：自己から脱け出すための哲学』、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『森の生活』、ロバート・ヘンライ『アート・スピリット』、尾崎俊介『アメリカは自己啓発本でできている』、牧野智和『自己啓発の時代——『自己』の文化社会学的探究』他。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

メール等で事前にアポイントメントをとったうえで、調整

連絡先：hogasa@sapporo-u.ac.jp

比較文化特論Ⅱ B

(秋学期／2単位)
小笠原 はるの

●テーマ

現代社会における「自己啓発」文化とその変遷

●授業概要

現代社会における「自己」と「社会」・「文化」との関係を、自己啓発メディアの発展を手がかりに分析する。「成長」「自己実現」「成功」といった概念が、どのように自己啓発の文脈で語られ、社会のなかで機能してきたのか、日米の自己啓発本を通じて考察する。

●到達目標

自己啓発の概念を考察することで、自己とコミュニティの関係性を文化的に考察できるようになる。

●授業計画

- 第1回 はじめに：「成長する自己」という観念の成立
- 第2回 「個人」の誕生：近代の「自己」概念の変遷
- 第3回 成功することが「良いこと」：アメリカン・ドリーム
- 第4回 「働くこと」が自己実現：日本における自己啓発の受容
- 第5回 新自由主義と自己責任の時代：「努力」概念の変化
- 第6回 ニューエイジ思想：ポジティブ・シンキングの限界
- 第7回 SNS 時代：フィルター化される「理想の自己」
- 第8回 ライフハックと自己最適化：生産性と自己改善の関係
- 第9回 自己啓発とジェンダー：男性向け・女性向け自己啓発
- 第10回 企業文化と自己啓発：ビジネス書における「成功」の語り方
- 第11回 自己管理と規律化される身体：「健康」と「良いこと」
- 第12回 「癒し」と「成功」：スピリチュアルと自己啓発の交差点
- 第13回 反・自己啓発という視点
- 第14回 AI 時代における「自己」とは何か：自己啓発の未来
- 第15回 まとめ

●事前学習

テキストを読み、疑問点を抽出しておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

ディスカッションで考察したことについてまとめておくこと。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点 50%

毎回の授業でのプレゼンテーション 50%。

プレゼンテーションについてはそのつど授業内で講評する。

●テキスト

下記から抜粋予定。

ヴィクトール・フランクル『夜と霧』、エリザベス・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間—死とその過程について』、岡本太郎『今日の芸術』、三島由紀夫『葉隠入門』、中根千枝『タテ社会の人間関係』、神谷美恵子『生きがいについて』、鈴木俊隆『禅マインド ビギナーズマインド』、スティーブン・コヴィー『7つの習慣』、水野敬也『夢をかなえるゾウ』他。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

メール等で事前にアポイントメントをとったうえで、調整

連絡先：hogasa@sapporo-u.ac.jp

比較歴史特論Ⅰ A

(春学期／2単位)
高瀬 奈津子

●テーマ

ユーラシア東部地域における中国隋唐王朝の歴史の流れを把握し、地域創生に役立つ教養を身につける。

●授業概要

隋唐時代は、中国史上、政治・社会経済・文化の面で最も華やかだった時代である。本授業では、東部ユーラシア地域における隋唐王朝の位置づけを理解し、隋唐時代の中国社会・文化の多様性を理解することを目的に、隋唐史研究の古典的論考である陳寅恪著『唐代政治史述論稿』を読み、あわせて引用されている史料を分析しながら、歴史研究の手法を学ぶ。

●到達目標

- ・歴史研究に必要な、論理的思考力を身に付ける。
- ・史料の収集、読解力を身に付ける。

●授業計画

ゼミナール形式で分担を決めて講読していく。引用されている原史料には必ず当たってもらうなど、古典漢文の訓読にも取り組んでもらう。

第1回 はじめに

第2回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―唐室李氏の世系について

第3回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―李重耳と李熙との間の断絶

第4回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―皇帝陵の所在地から考察する李氏の籍貫

第5回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―西魏宇文泰の「関中本位政策」による影響

第6回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―南北朝時代における「胡化」と「漢化」

第7回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―唐代前期の政治状況概観

第8回 テーマ発表

第9回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―則天武后による科举官僚の拔擢

第10回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―玄宗期以降の宦官専政の出現

第11回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―長安洛陽文化と河北文化

第12回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―安史の乱と民族問題

第13回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―河朔藩鎮と民族問題

第14回 『唐代政治史述論稿』「上篇 統治階級之氏族及其昇降」
―唐朝と西北民族の動向

第15回 テーマ発表

●事前学習

- ・それぞれ担当となった箇所について、本文を訳し、引用されている原史料について、資料を人数分作成すること。
- ・担当外の者も、本文について目を通し、自分なりの訳を準備しておくこと。
- ・各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

本文をもう一度読み直し、陳寅恪氏の論証の流れを確認すること。各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

レポート50%、研究発表50%、計100%とする。レポート及び研究発表については授業内で講評する。

●テキスト

必要部分をプリント配布。

●参考書・参考資料等

自宅学習においては、氣賀澤保規著『中国の歴史 6 絢爛たる世界帝国 隋唐時代』（講談社、2005年）など、日本語で書かれている隋唐史の概説書を参照のこと。その他、随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:20～12:50 7523 研究室。

比較歴史特論Ⅰ B

(秋学期／2単位)
高瀬 奈津子

●テーマ

ユーラシア東部地域における中国隋唐王朝の歴史の流れを把握し、地域創生に役立つ教養を身につける。

●授業概要

隋唐時代は、中国史上、政治・社会経済・文化の面で最も華やかだった時代である。本授業では、東部ユーラシア地域における隋唐王朝の位置づけを理解し、隋唐時代の中国社会・文化の多様性を理解することを目的に、隋唐史研究の古典的論考である陳寅恪著『唐代政治史述論稿』を読み、あわせて引用されている史料を分析しながら、歴史研究の手法を学ぶ。

●到達目標

- ・歴史研究に必要な、論理的思考力を身に付ける。
- ・史料の収集、読解力を身に付ける。

●授業計画

ゼミナール形式で分担を決めて講読していく。引用されている原史料には必ず当たってもらうなど、古典漢文の訓読にも取り組んでもらう。

第1回 はじめに

第2回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―「関中本位政策」

第3回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―中央における政治クーデターと宮城北門

第4回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―太宗～中宗～玄宗の期の政変

第5回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―唐朝における皇位継承の不安定性

第6回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―山東土族

第7回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―唐朝と山東土族との関係

第8回 テーマ発表

第9回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―牛李の党争

第10回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―新興科举官僚

第11回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―永貞内禅と元和中興

第12回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―宦官の専政～憲宗・穆宗・敬宗～

第13回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―宦官の専政～文宗・武宗～

第14回 『唐代政治史述論稿』「中篇 政治革命及党派分野」
―宦官の専政～宣宗以降

第15回 テーマ発表

●事前学習

- ・それぞれ担当となった箇所について、本文を訳し、引用されている原史料について、資料を人数分作成すること。
- ・担当外の者も、本文について目を通し、自分なりの訳を準備しておくこと。
- ・各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

本文をもう一度読み直し、陳寅恪氏の論証の流れを確認すること。各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

レポート50%、研究発表50%、計100%とする。レポート及び研究発表については授業内で講評する。

●テキスト

必要部分をプリント配布。

●参考書・参考資料等

自宅学習においては、氣賀澤保規著『中国の歴史 6 絢爛たる世界帝国 隋唐時代』（講談社、2005年）など、日本語で書かれている隋唐史の概説書を参照のこと。その他、随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:20～12:50 7523 研究室。

比較歴史特論Ⅱ A

(春学期／2単位)
金 誠

●テーマ

朝鮮の近代史理解と日韓の歴史認識問題へのアプローチ

●授業概要

朝鮮の近代史は日本の植民地支配と切り離すことはできない。またこの植民地経験は現在の日韓関係にも影響し、歴史認識問題として常に現れてくる政治的課題であり、社会的問題でもある。

本講義では朝鮮の近代史をナショナリズムの理論を含めて理解し、日韓の歴史認識問題について考察を深めていきます。

●到達目標

朝鮮の近代史を理解し、歴史認識問題における議論を分析できるようになる。

●授業計画

第1回 日本と朝鮮の歴史を見る視点

第2回 近代とナショナリズム

第3回 「徳治」の論理と「法治」の論理

第4回 国家の「強さ」と社会の「強さ」

第5回 「臣民」からネーションへ

第6回 「儒教的レッセフェール」と朝貢体制

第7回 近代朝鮮の自国認識と小国論

第8回 「売国」の論理

第9回 平和主義から親日派へ

第10回 「小国意識」とナショナリズム

第11回 歴史認識問題を考えるための理論的枠組み

第12回 日韓歴史教科書問題

第13回 転換期としての八〇年代

第14回 従軍慰安婦問題

第15回 まとめ

●事前学習

事前に次の授業時のテキストを精読し、ディスカッションができるようにする。事前学習として1時間以上の学習と要する。

●事後学習

全体でのテキストの講読、ディスカッションで導かれた論点を整理し、テキストを再読する。事後学習として1時間以上の学習を要する。

●成績評価

平常点 50%

授業内でのプレゼンテーション 50%。

プレゼンテーションの講評は授業内に行います。

●テキスト

木村幹 (2000) 『朝鮮/韓国ナショナリズムと「小国」意識』ミネルヴァ書房

木村幹 (2014) 『日韓歴史認識問題とは何か』ミネルヴァ書房

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義後に対応します。それ以外はメールにて連絡の上、面談時間を設定します (makoto-k@sapporo-u.ac.jp)

比較歴史特論Ⅱ B

(秋学期／2単位)
金 誠

●テーマ

国際関係のなかの朝鮮近現代史

●授業概要

朝鮮の植民地から解放、またその後の分断国家の形成について考察を深めていく。朝鮮を植民地としたのは日本であったが、帝国日本の崩壊後に朝鮮の主導権を握ったのはアメリカとソ連であった。大国が朝鮮半島に介入していくなかで朝鮮の指導者らは如何に独立を果たそうとしたのか、またその過程でどのように分断国家が形成されたのかを国際関係を含めて理解していきます。

●到達目標

朝鮮の近代史を国際関係から理解し、分断国家が形成されたプロセスを分析できるようになる。

●授業計画

第1回 国際関係と朝鮮の近現代史

第2回 植民地朝鮮における社会階級と支配機構

第3回 植民地朝鮮における地主と小作人の関係

第4回 革命と反動

第5回 坩堝のなかの対朝鮮政策

第6回 新しい秩序の創出

第7回 南朝鮮の単独政府に向かって

第8回 国際協調主義政策と一国独占主義的論理

第9回 各道における人民委員会の概観

第10回 各道における人民委員会の運命

第11回 九月ゼネストと一〇月人民蜂起

第12回 北朝鮮の風

第13回 衝突 一九四八—一九五三

第14回 韓国の日の出と民主化、太陽王の国—北朝鮮

第15回 まとめ

●事前学習

事前に次の授業時のテキストを精読し、ディスカッションができるようにする。事前学習として1時間以上の学習と要する。

●事後学習

全体でのテキストの講読、ディスカッションで導かれた論点を整理し、テキストを再読する。事後学習として1時間以上の学習を要する。

●成績評価

平常点 50%

授業内でのプレゼンテーション 50%。

プレゼンテーションの講評は授業内に行います。

●テキスト

ブルース・カミングス (2012) 『朝鮮戦争の起源1』明石書店

ブルース・カミングス (2003) 『現代朝鮮の歴史』明石書店

李景珉 (2003) 『朝鮮現代史の岐路』平凡社選書

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義後に対応します。それ以外はメールにて連絡の上、面談時間を設定します (makoto-k@sapporo-u.ac.jp)

文化学特論

(秋学期／2単位)

南山 雅樹

●テーマ

地域共創を考えるにあたり、様々な時代、民族の文化の融合について取り上げて研究する。

●授業概要

音楽を鑑賞し、その成り立ちを分析・紹介します。主としてジャズ・クラシックおよびワールドミュージックを採り上げ、その歴史の変遷、どのような文化が融合して生まれたのかを検証し、ポピュラー音楽全般への影響についても考察します。

●到達目標

様々な音楽を多くの視野で捉えられるようにするのが本講の主たる目標ですが、このようなアプローチをぜひ院生のみなさんの研究テーマにも生かして頂きたいと考えています（音楽に詳しい知識のない方にも理解しやすい内容になるように心がけます）。

●授業計画

第1回 ジャズの歴史とその発展

第2回 ジャズの生い立ち

第3回 ジャズの表現方法の特色

第4回 ジャズの変遷

第5回 研究発表（1）

第6回 クラシック音楽

第7回 時代区分

第8回 歴史的変遷

第9回 異文化との融合

第10回 研究発表（2）

第11回 民族音楽、世界のポピュラー音楽

第12回 各地区の音楽の特色

第13回 他のジャンルとの融合

第14回 研究発表（3）

第15回 まとめ

●事前学習

普段聴いている音楽があれば、その成り立ちについて研究してみたいと思います。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

本講でとりあげた音楽以外の音楽についても、図書館の資料（本、CD、DVD など）で各回のテーマに沿って接してみてください。疑問な点は次回の講義で解決を図ります。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究発表の内容 50%、テーマに基づくディスカッションの内容 50%で評価する。

●テキスト

使用する予定はありません。参考資料をテーマに応じて配布予定。

●参考書・参考資料等

講義の際に随時紹介します。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義の前後の時間を活用して随時対応する。

企業文化の国際比較特論 A (春学期／2単位) 汪 志平

●テーマ

この授業では、異なる国や地域の企業文化を比較し、異文化間の違いや共通点を理解することを目的としている。国際的なビジネス環境で活躍するために、異なる文化的背景を持つ企業とのコミュニケーションや協力方法を学ぶ。

●授業概要

多国籍企業の置かれている国際経営環境ならびに異文化経営の特徴を主な研究対象とする。

授業は、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションなどによって進める。

●到達目標

異なる国々の制度や文化が企業の経営システムに与える影響を理解する。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業文化とは何か
- 第3回 企業文化の形成と組織革新
- 第4回 企業文化の定義と類型
- 第5回 国際経営と企業文化
- 第6回 日本型経営と企業文化
- 第7回 日本企業の組織文化課題
- 第8回 米国の企業文化と変革～GEの事例
- 第9回 日米ジョイントベンチャーにおける企業文化の衝突
- 第10回 日米企業の企業文化にみられる国の文化の影響
- 第11回 アジアにおける企業文化の比較研究
- 第12回 中国と日本の企業文化比較
- 第13回 中国における企業文化の動態
- 第14回 欧米主要企業における企業文化確立の歴史
- 第15回 企業文化における儒家・儒商の意義

●事前学習

指定された資料を予習しておくこと。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業で読んだ資料の内容を復習してまとめること。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

授業で配布する。

●参考書・参考資料等

授業で指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7703 研究室にて対応する。

企業文化の国際比較特論 B (秋学期／2単位) 汪 志平

●テーマ

企業文化が経営システムに与える影響を、事例研究を通じて理解を深める。

●授業概要

日本、米国、中国などにおける企業文化と企業倫理の変化と今後を考える。各国の企業文化はどのような変化を経験してきたのか、今はどのような状況にあるのか、喫緊の課題は何かを学習する。

授業は、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションなどによって進める。

●到達目標

学位論文の作成に必要なとなる企業文化の基礎理論と事例研究の書き方を修得する。

●授業計画

- 第1回 社会の変化と企業の文化
- 第2回 グーグルの急成長に見る企業文化の役割
- 第3回 創業者の個性と企業文化～鴻海と奇美の事例
- 第4回 華為の企業文化
- 第5回 海底撈の組織文化
- 第6回 企業文化と接客従業員の共感～東京ディズニーランド
- 第7回 日本における企業文化とホスピタリティ
- 第8回 企業文化の形成過程～ITベンチャーの事例
- 第9回 企業不祥事と企業文化
- 第10回 企業不祥事とビジネス倫理
- 第11回 中国の食品安全問題と企業文化
- 第12回 企業不祥事にみる従業員の倫理観と組織風土
- 第13回 日本の中小企業文化と日本文化の親和性
- 第14回 グローバル企業文化の形成と教育
- 第15回 パラダイムシフトと企業文化の本質追求

●事前学習

指定された資料を予習しておくこと。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業で読んだ資料の内容を復習してまとめること。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

授業で配布する。

●参考書・参考資料等

授業で指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7703 研究室にて対応する。

事業創造論特論A

(春学期／2単位)
井上 祐輔

●テーマ

経営組織論の視点から事業創造を理解する。

●授業概要

本講義では、文献の輪読を通じて、事業創造に対する方法論的視角を理解し、事業創造に対する研究への分析視点を得ることを目的とする。また、文献の輪読・発表、事例を通じて得た知見を活かし、事業創造について議論する。

●到達目標

- ・自身の研究の方法論的立場を説明することができる。
- ・理論的フレームワークを用い、事業創造を説明することができる。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション、事業創造とは
- 第2回 研究方法論①主観主義と客観主義
- 第3回 研究方法論②機能主義と社会構成主義
- 第4回 制度的同型化
- 第5回 制度的戦略
- 第6回 技術の社会的構成
- 第7回 アクター・ネットワーク
- 第8回 イノベーションと技術
- 第9回 状況的学習論
- 第10回 状況のデザイン
- 第11回 文化-歴史的活動理論
- 第12回 ドミナント・デザイン
- 第13回 ユーザー・イノベーション
- 第14回 市場の社会学
- 第15回 総括

●事前学習

指定された文献を事前に読んでおくこと。輪読発表担当者は、発表資料を作成すること。各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

指定された文献を事前に読んでおくこと。各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業への参加程度（発表および質疑）、レポートで評価を行う。

●テキスト

基本的には資料を提示ないし配布する。

●参考書・参考資料等

都度紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7721 研究室にて対応。

事業創造論特論B

(秋学期／2単位)
井上 祐輔

●テーマ

経営組織論の視点から事業創造を理解する。

●授業概要

本講義では、文献の輪読を通じて、事業創造において現場で生じる現象を考察する。また、文献の輪読・発表、事例を通じて得た知見を活かし、事業創造について議論する。

●到達目標

- ・理論的フレームワークを用い、事業創造を説明することができる。
- ・事業を創造する上での課題と解決策を考える視点を身につける。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション、事業創造の捉え方
- 第2回 模倣と事業創造①模倣の対象
- 第3回 模倣と事業創造②模倣の創造性
- 第4回 新技術の導入における現場
- 第5回 事業創造の障壁①分からない
- 第6回 事業創造の障壁②進まない
- 第7回 事業創造の障壁③変わらない
- 第8回 事業創造における対話
- 第9回 事業創造とレトリック
- 第10回 事業創造の実験
- 第11回 事業創造への関心づけ
- 第12回 事業の強化
- 第13回 事業の合理性
- 第14回 計算の中心
- 第15回 総括

●事前学習

指定された文献を事前に読んでおくこと。輪読発表担当者は、発表資料を作成すること。各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

指定された文献を事前に読んでおくこと。各回約2時間の事前学習を要する。

●成績評価

授業への参加程度（発表および質疑）、レポートで評価を行う。

●テキスト

- ・井上達彦『模倣の経営学』日経BP社2012年
- ・上野直樹編著『状況のインターフェース』金子書房2001年
- ・宇多川元一『企業変革のジレンマ』日本経済新聞出版2024年
- ・ブルーノ・ラトゥール『科学が作られているとき』産業図書1987年

●参考書・参考資料等

都度紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7721 研究室にて対応。

地域活性化特論A

(春学期／2単位)
中山 健一郎

●テーマ

地域活性化の本質を理解する。

●授業概要

地域活性化にかかる概念や基本理論のほか、商店街、地域＋地域資源の観点から地域活性化を考察する。

●到達目標

- ・地域活性化に係る専門的学術用語に慣れ、学問的体系と内容を解説することができる。
- ・経済専門誌等から、地域活性化のテーマを選び出し時事的に論じることができる。
- ・興味ある地域や地域産業、地域商業を選んで、それぞれが抱えている社会的課題を整理し、解決するための企画、方策を提示し、実践に繋げることができる。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション
地域活性化に関する基本的な概念・理論・授業の進め方、評価方法の説明
- 第2回 地域活性化とは何か
- 第3回 少子高齢化社会の問題
- 第4回 RESAS(地域経済分析システム)を利用した地域分析
- 第5回 北海道の人口減少と実態
- 第6回 増田寛也『地方消滅』を読み解く
- 第7回 地域コミュニティ：地域の自己組織化
- 第8回 地方移住と地域活性化
- 第9回 関係人口とは何か
- 第10回 田中輝美の『関係人口論』を読み解く
- 第11回 関係人口ネットワーク試論
- 第12回 NPOと地域活性化
- 第13回 中間支援組織の実態
- 第14回 課題提示と解説
- 第15回 受講生による発表（地域経済分析システム（RESAS）を利用し、データに基づく地域活性化の提言）

●事前学習

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

各回約1時間の事前学習を要する

●事後学習

授業で理解が進まなかったところの復習を行うこと。興味のある活性化事業事例について準備学習。

各回約2時間の事後学習を要する

●成績評価

授業内での発言、発表および宿題等の平常点で評価する。

●テキスト

基本的には資料を提示ないし配布する。状況に応じて塩見治人・井上泰夫・向井清史・梅原浩次郎『希望の名古屋圏は可能か』風媒社2018年をテキスト使用する。

●参考書・参考資料等

- ・小磯修二，村上裕一，山崎幹根『地方創生を超えて』岩波書店2018年
 - ・増田寛也『地方消滅』中公新書2014年
 - ・山浦晴男『地域再生入門』ちくま書房2015年
 - ・山崎朗『地域創生のデザイン』中央経済社2016年
 - ・大正大学地域創生学部『地域創生への招待』大正大学出版会2020年
 - ・塩見治人・井上泰夫・向井清史・梅原浩次郎『希望の名古屋圏は可能か』風媒社2018年。
- その他、必要な資料は適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7413研究室にて。

地域活性化特論B

(秋学期／2単位)
中山 健一郎

●テーマ

経済、経営の視点から地域活性化を理解する。

●授業概要

まちづくり、地域活性化は喫緊の社会的課題である。しかし、こうした社会的課題を担うべき専門家の育成と、具体的な活性化事例の分析が確立されていない。関係人口論ほか、まちづくり、地域活性化の理論と体系的枠組み、具体的な事例分析を通じて実践的な知識やスキルの習得、学術的な価値を創出する。

●到達目標

フレームワークを通じて地域創生を考える力を身につける。

●授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地方創生とは何か
- 第3回 塩見治人他『希望の名古屋圏は可能か』を読み解く
- 第4回 シニアネットワークの可能性考察
- 第5回 コミュニティマネジメント
- 第6回 小田切徳美の『農山村再生に挑む』を読み解く
- 第7回 農山村再生の可能性考察
- 第8回 グローカルビジネス
- 第9回 地域社会と産業集積
- 第10回 塩見治人他『ポジティブエイジング』を読み解く
- 第11回 21世紀社会をどうみるか
- 第12回 地域活性化の方法論
- 第13回 ネットワーキング，プラットフォーム論からの考察
- 第14回 課題提示と解説
- 第15回 受講生による発表

●事前学習

地域活性化特論Aと同様。各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

地域活性化特論Aと同様。各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業内での発言、発表および宿題等の平常点で評価する。

●テキスト

基本的には資料を提示ないし配布する。状況に応じて大正大学地域創生学部『地域創生への招待』大正大学出版会2020年を使用。

●参考書・参考資料等

- ・小磯修二，村上裕一，山崎幹根『地方創生を超えて』岩波書店2018年
- ・増田寛也『地方消滅』中公新書2015年
- ・山浦晴男『地域再生入門』ちくま書房2015年
- ・山崎朗『地域創生のデザイン』中央経済社2016年
- ・塩見治人・井上泰夫・向井清史・梅原浩次郎『希望の名古屋圏は可能か』風媒社2018年。
- ・塩見治人，安川悦子，安藤金男，梅原浩次郎『ポジティブエイジングへの展望』風媒社2022年

その他、必要な資料は適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7413研究室にて。

地域経済学特論 A

(春学期／2単位)
武者 加苗

●テーマ

本講義では、地域経済学、都市経済学、交通経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。

●授業概要

同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様々ではない。一般に、地域経済ではヒト・モノの移動が容易であり、国際経済より開放的であるなお、テーマは参加者の関心を考慮して対応する。

●到達目標

修士論文の作成に必要な基礎的な地域経済のモデル及びその考え方を修得する。

●授業計画

- 第1回 世界の地域経済の基本構造
- 第2回 日本の地域経済の基本構造
- 第3回 北海道の地域経済の基本構造
- 第4回 地域経済の成長の概念
- 第5回 地域経済の成長理論
- 第6回 需要モデルと供給モデル
- 第7回 地域間格差と人口移動
- 第8回 米国の地域間格差と人口移動
- 第9回 日本の地域間格差と人口移動
- 第10回 地域間交易と空間経済学
- 第11回 欧州の地域間交易と空間経済学
- 第12回 日本の地域間交易と空間経済学
- 第13回 産業・工業・商業施設の立地
- 第14回 農業の立地
- 第15回 農業と食

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

レポート提出100%。平常点を加味して評価する。
レポートのテーマは参加者の関心によって選択できる。

●テキスト

参加者の関心を考慮して対応する。

●参考書・参考資料等

H. Armstrong, J. Taylor “Regional Economics and Policy”
邦訳：佐々木公明 訳（2005）「[改訂版]地域経済学と地域政策」流通経済大学出版社。

●備考

テキストは初回授業まで購入する必要はない

●オフィスアワー

月曜12時～14時。

地域経済学特論 B

(秋学期／2単位)
武者 加苗

●テーマ

本講義では、地域経済学、都市経済学、交通経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。

●授業概要

同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様々ではない。一般に、地域経済ではヒト・モノの移動が容易であり、国際経済より開放的である。なお、テーマは参加者の関心を考慮して対応する。

●到達目標

修士論文の作成に必要な基礎的な都市経済のモデル及びその考え方を修得する。

●授業計画

- 第1回 産業連関表とは
- 第2回 産業連関分析とは
- 第3回 産業連関分析による経済波及効果
- 第4回 都市と地域の交通
- 第5回 都市部の交通と混雑
- 第6回 地方部の交通と持続可能性
- 第7回 都市の環境問題～外部性
- 第8回 都市の環境問題～郊外
- 第9回 都市の環境政策
- 第10回 地価と土地問題
- 第11回 土地税制の効果
- 第12回 住宅市場の理論
- 第13回 ヘドニック・アプローチ
- 第14回 住宅政策の分析
- 第15回 公共部門と地方公共財

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

レポート提出100%。平常点を加味して評価する。
レポートのテーマは参加者の関心によって選択できる。

●テキスト

参加者の関心を考慮して対応する。

●参考書・参考資料等

H. Armstrong, J. Taylor “Regional Economics and Policy”
邦訳：佐々木公明 訳（2005）「[改訂版]地域経済学と地域政策」流通経済大学出版社。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

月曜12時～14時。

マーケティング特論A (春学期／2単位) 角田 美知江

●テーマ

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。地域企業がマーケティング活動を行う上での問題を提起し、マーケティング理論を活用し、独自性の高い研究を行い、論文にしていけることを目指す。

●授業概要

本講義では、文献の輪読を通じて、マーケティングの概念を理解し、研究への分析視点を得ることを目的とする。また、輪読を通じて得た知見を活かし、地域の中小規模企業におけるマーケティングについて、議論する。

授業は、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションなどによって進める。

●到達目標

- ・自身の研究内容を経営学やマーケティングの理論や方法論の中で位置づけることができる。
- ・マーケティング上の課題に対して解決のため必要な調査方法を説明できる。
- ・様々なデータに対して最適な分析手法を提案できる。
- ・分析結果を分かりやすく報告することができる。

●授業計画

- 第1回 インTRODクシヨ 地域企業とマーケティング
第2回 マーケティングの研究視点
第3回 マーケティングと市場
第4回 企業戦略とマーケティング戦略
第5回 地域企業の背景
第6回 地域特性と経営理念、経営者意識① 福島県南相馬の復興の状況
第7回 地域特性と経営理念、経営者意識② 近江商人の伝統を受け継ぐ企業
第8回 地域特性と経営理念、経営者意識③ モノづくりを残す取り組み
第9回 地域特性と経営理念、経営者意識④ 地域企業による広域活動
第10回 地域特性と経営理念、経営者意識⑤ 地域企業の持続性
第11回 地域企業と産学連携、グローバルな人材育成① 企業間連携
第12回 地域企業と産学連携、グローバルな人材育成② 企業誘致と地域の成長
第13回 地域企業と産学連携、グローバルな人材育成③ 宮崎ーバン グラデシ ョモデル
第14回 地域企業と産学連携、グローバルな人材育成④ 人材育成と地方企業
第15回 まとめ 課題レポートについての議論

●事前学習

指定された文献を事前に読んでおくこと。ケーススタディの対象として指定された対象の資料を収集しておくこと。
各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

講義で取り上げられたマーケティングの概念や議論の内容について、知識を深めるために、指定された文献等を熟読しておくこと。
各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表、積極的な発言、課題提出 60%、レポート 40%。

●テキスト

『マーケティング』池尾恭一他著 有斐閣 (2010.4)

●参考書・参考資料等

『グローバル化の中の地域企業』日本経営学会東北部会プロジェクトチーム編 文眞堂 (2020.11)

●備考

特になし。

●オフィスアワー

月曜日 (16:00～18:00) 中央棟 7 階 7720 研究室。

連絡先: tsunoda@sapporo-u.ac.jp 事前にメールでアポイントをとること。

マーケティング特論B (秋学期／2単位) 角田 美知江

●テーマ

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。地域企業がマーケティング活動を行う上での問題を提起し、マーケティング理論を活用し、独自性の高い研究を行い、論文にしていけることを目指す。

●授業概要

本講義では、文献の輪読を通じて、マーケティングの概念を理解し、研究への分析視点を得ることを目的とする。また、輪読を通じて得た知見を活かし、地域の中小規模企業におけるマーケティングについて、議論する。

授業は、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションなどによって進める。

●到達目標

- ・自身の研究内容を経営学やマーケティングの理論や方法論の中で位置づけることができる。
- ・マーケティング上の課題に対して解決のため必要な調査方法を説明できる。
- ・マーケティング戦略における競争戦略論について理解したうえで、企業の戦略について説明できる。
- ・分析結果を分かりやすく報告することができる。

●授業計画

- 第1回 INTRODUCTION マーケティングとポーターの競争戦略論
第2回 競争とは何か?① 競争ー正しい考え方
第3回 競争とは何か?② 五つの競争要因ー利益をめぐる競争
第4回 競争とは何か?③ 競争優位ーバリューチェーンと損益計算書
第5回 戦略とは何か?① 価値創造ー戦略の核
第6回 戦略とは何か?② トレードオフー戦略のかすがい
第7回 戦略とは何か?③ 適合性ー戦略の増幅装置
第8回 戦略とは何か?④ 継続性ー戦略の実現要因
第9回 中小企業のグローバル経営① 中小企業を取り巻く背景
第10回 中小企業のグローバル経営② 中小企業革新的経営
第11回 中小企業のグローバル経営③ 企業成長とグローバル化
第12回 中小企業のグローバル経営④ 国際標準化と知財戦略
第13回 中小企業のグローバル経営⑤ 中小企業のグローバル経営
第14回 中小企業のグローバル経営⑥ 成功事例から考える応用可能性
第15回 まとめ 課題レポートについての議論

●事前学習

講義で指定された文献を事前に読んでおくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

講義で取り上げられたマーケティングの概念や議論の内容について、整理しておくこと。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表、積極的な発言、課題提出 60%、レポート 40%。

●テキスト

『[エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略』マグレッタ, ジョアン著、櫻井 祐子訳 早川書房 (2012.9)

●参考書・参考資料等

『革新的中小企業のグローバル経営』土屋勉男他著 同文館出版 (2015.1)

●備考

特になし。

●オフィスアワー

月曜日 (16:00～18:00) 中央棟 7 階 7720 研究室。

連絡先: tsunoda@sapporo-u.ac.jp 事前にメールでアポイントをとること。

企業経営と財務諸表特論A (春学期／2単位) 岩橋 忠徳

●テーマ

企業経営において必要とされる会計情報、特に財務諸表の計算構造についての知識を修得する。

●授業概要

企業を取り巻く利害関係者は適切な意思決定を行うために、当該企業によって作成された会計情報を入手して活用する。ここでの会計情報とは、金融商品取引法でいえば、有価証券報告書等によって企業外部に提供される財務諸表を指す。個別財務諸表でいえば、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等計算書といった各財務表における計算構造に対する理解を深めるだけにとどまらず、財務表同士がどのように関わっているのかについても学ぶことが重要である。

本講義では、財務諸表がどのような原則や基準に基づいて作成されるのかを学んだ上で、個別財務諸表ならびに連結財務諸表における計算構造について、学んでもらう予定である。

●到達目標

財務諸表に包含される各財務表ならびにそれら相互間の計算構造について、説明することができる。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財務諸表とは何か
- 第3回 貸借対照表の意義
- 第4回 貸借対照表に関連する原則・基準
- 第5回 貸借対照表の計算構造
- 第6回 損益計算書および包括利益計算書の意義
- 第7回 損益計算書および包括利益計算書に関する原則・基準
- 第8回 損益計算書および包括利益計算書の計算構造
- 第9回 キャッシュ・フロー計算書の意義
- 第10回 キャッシュ・フロー計算書(直接法)の計算構造
- 第11回 キャッシュ・フロー計算書(間接法)の計算構造
- 第12回 貸借対照表と損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書との関係性
- 第13回 株主資本等変動計算書の計算構造
- 第14回 連結財務諸表とは何か
- 第15回 連結貸借対照表と連結損益計算書の計算構造

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

講義での報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

テキストについては受講者と相談の上、決定する。

●参考書・参考資料等

必要となる参考書・参考資料等については適宜、授業で紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週木曜日 12:10～13:00 中央棟7階7715研究室。
上記の時間帯以外で面談を希望の方は、E-mailにて事前連絡を行うこと。

企業経営と財務諸表特論B (秋学期／2単位) 岩橋 忠徳

●テーマ

企業経営において必要とされる会計情報、特に財務諸表について分析する知識を修得する。

●授業概要

企業を取り巻く利害関係者が適切な意思決定を行うために、当該企業によって作成される会計情報を入手して、各種の指標に基づいて分析を行うことを経営分析という。経営分析の指標には、収益性、安全性、生産性、効率性、成長性などがあるが、各指標における計算式を学ぶだけでは財務諸表を有用に分析することはできない。そこで、各指標の意義を理解するとともに、財務諸表を分析するためには各指標をどのように複合的に用いるかについて学ぶことが重要である。

本講義では、企業が公表する財務諸表をもとに時系列分析、あるいは企業間比較分析や業界平均との比較分析を行うために必要とされる指標を用いた理論や技法について考察する。さらに有価証券報告書等を用いて実際に分析・評価を行ってもらう予定である。

●到達目標

財務諸表を有用に活用するために、経営分析指標を用いて企業経営の状況について、説明することができる。

●授業計画

- 第1回 財務諸表の計算構造
- 第2回 財務諸表分析とは何か
- 第3回 収益性に関する分析指標—資本による分析
- 第4回 収益性に関する分析指標—売上高による分析
- 第5回 安全性に関する分析指標—短期支払能力の分析
- 第6回 安全性に関する分析指標—長期資金調達の分析
- 第7回 生産性に関する分析指標—付加価値の分析
- 第8回 生産性に関する分析指標—労働生産性と労働分配率の分析
- 第9回 効率性に関する分析指標—資本回転率の分析
- 第10回 効率性に関する分析指標—資産とその他の回転率の分析
- 第11回 成長性に関する分析指標—損益計算書項目による分析
- 第12回 成長性に関する分析指標—貸借対照表項目による分析
- 第13回 キャッシュ・フロー分析
- 第14回 株価収益率(PER)と株価純資産倍率(PBR)
- 第15回 経営分析指標に基づく総合的な評価

●事前学習

各回2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回2時間の事後学習を要する。

●成績評価

講義での報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

テキストについては受講者と相談の上、決定する。

●参考書・参考資料等

必要となる参考書・参考資料等については適宜、授業で紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週木曜日 12:10～13:00 中央棟7階7715研究室。
上記の時間帯以外で面談を希望の方は、E-mailにて事前連絡を行うこと。

情報科学特論 A

(春学期／2単位)
伊藤 公紀

●テーマ

情報科学リテラシーの修得。

●授業概要

現代は第 4 次産業革命の只中にあると言われている。その担い手は AI（人工知能）である。AI を支えている技術は統計学やプログラミング技法など多岐にわたるが、本講義ではその中でも情報科学に焦点を絞り、それを学ぶために必要とするプログラミング知識をオブジェクト指向言語の一つである Ruby の演習を交えながら学ぶ。

●到達目標

情報科学の分野で知られている典型的な課題を解くために、必要なプログラミング技法を習得すること。

●授業計画

第 1 回 プログラミング言語 Ruby

第 2 回 変数

第 3 回 3 つの基本制御構造

第 4 回 アルゴリズムの記述方法

第 5 回 メソッドの定義

第 6 回 クラス定義とインスタンス

第 7 回 データ型

第 8 回 配列

第 9 回 ハッシュ

第 10 回 文字列

第 11 回 条件分岐と繰り返し

第 12 回 論理演算

第 13 回 再帰の考え方

第 14 回 再帰的メソッドの定義

第 15 回 まとめ

●事前学習

シラバスや授業のまとめで説明する次回の授業内容について、テキスト等でその概要を掴んでおくこと。

各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

前回までの授業のノート等を確認して、理解が不十分であった箇所等を調べたり質問したりすること。

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点により評価する。なお、出席が 2/3 以上に満たない者は不合格とする。

●テキスト

久野 靖：『Ruby による情報科学入門』近代科学社，2008。

●参考書・参考資料等

- ・山田祥寛：『独習 Ruby 新版』翔泳社，2021。
- ・五十嵐邦明，松岡浩平：『ゼロからわかる Ruby 超入門』技術評論社，2018。

●備考

オブジェクト指向プログラミングの経験があることが望ましい。無い場合は、参考書として挙げてあるテキストを併用して学ぶことを勧める。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週火曜日 12:15～12:50、7716 研究室。

情報科学特論 B

(秋学期／2単位)
伊藤 公紀

●テーマ

情報科学リテラシーの修得。

●授業概要

本講義ではアルゴリズムを計算量という視点で評価することを学ぶ。また、現実世界にあるさまざまな事象を記録するためのデータの表現形式とその特徴、およびそれに適したアルゴリズムについて検討していく。なお、本講義はオブジェクト指向プログラミング言語の一つである Ruby を使用し演習を交えながら学ぶ。

●到達目標

情報科学の概念（アルゴリズムと計算量、典型的な数値計算法、パターン認識など）や技法を習得すること。

●授業計画

第 1 回 アルゴリズムとは

第 2 回 計算量（O 記法）

第 3 回 整列アルゴリズム（単純整列法）

第 4 回 整列アルゴリズム（併合整列法）

第 5 回 整列アルゴリズムの時間計算量

第 6 回 数値計算（数値積分）

第 7 回 乱数

第 8 回 実数データと誤差

第 9 回 Gauss 消去法、Gauss-Jordan 法

第 10 回 モンテカルロ法

第 11 回 動的データ構造

第 12 回 レコード

第 13 回 再帰データ構造（リスト構造）

第 14 回 再帰データ構造（木構造）

第 15 回 まとめ

●事前学習

シラバスや授業のまとめで説明する次回の授業内容について、テキスト等でその概要を掴んでおくこと。

各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

前回までの授業のノート等を確認して、理解が不十分であった箇所等を調べたり質問したりすること。

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点により評価する。なお、出席が 2/3 以上に満たない者は不合格とする。

●テキスト

久野 靖：『Ruby による情報科学入門』近代科学社，2008。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

オブジェクト指向プログラミングの経験が必要である。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週火曜日 12:15～12:50、7716 研究室。

地方自治特論A

(春学期／2単位)

武岡 明子

●テーマ

地方自治の現状と課題、その解決方策の検討。

●授業概要

地方自治体は私たちにとって最も身近な「政府」であり、様々な行政サービスを提供する一方で時に私たちの権利を制限し義務を課す権力的な存在でもある。分権型社会と言われて久しいが、複雑多様化する行政需要にどう対応するか、国との役割分担のあり方、首長のリーダーシップ、議員のなり手をどう確保するかなど、自治体を取り巻く環境は年々厳しさを増している。

この授業では、地方自治が直面する現状と課題について学び、その改革方策について検討する。授業は受講者によるテキストの輪読および発表により進める。

●到達目標

- 1 地方自治の理念や制度を理解し、主体的に行動する力を涵養する。
- 2 地方自治が直面する課題の解決に向けて幅広く社会で活躍できる専門性を身につける。

●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自治体と地方自治制度
- 第3回 日本の地方自治制度の歴史
- 第4回 地方分権改革
- 第5回 都道府県と市区町村
- 第6回 第2回から第5回までの振り返りと考察
- 第7回 自治体の統治構造
- 第8回 首長と執行機関
- 第9回 議会と議員
- 第10回 第7回から第9回までの振り返りと考察
- 第11回 自治体の政策と総合計画
- 第12回 政策法務と条例
- 第13回 産業政策と地方創生
- 第14回 まちづくりと公共事業
- 第15回 第11回から第14回までの振り返りと考察

●事前学習

テキストの該当箇所を読み、自分の担当箇所のレジュメを作成する。
各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

メモ等をもとに授業ノートを整理すること。
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%。

●テキスト

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版。2020年。

※受講生の研究分野や関心にもとづき、テキストを変更することもあります。テキストは事前に購入せず、決定してから購入して下さい。

●参考書・参考資料等

必要に応じて、随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中、毎週水曜日 9:30～10:20（7404 研究室）。

地方自治特論B

(秋学期／2単位)

武岡 明子

●テーマ

地方自治の現状と課題、その解決方策の検討。

●授業概要

地方自治体は私たちにとって最も身近な「政府」であり、様々な行政サービスを提供する一方で時に私たちの権利を制限し義務を課す権力的な存在でもある。分権型社会と言われて久しいが、複雑多様化する行政需要にどう対応するか、国との役割分担のあり方、首長のリーダーシップ、議員のなり手をどう確保するかなど、自治体を取り巻く環境は年々厳しさを増している。

この授業では、地方自治が直面する現状と課題について学び、その改革方策について検討する。授業は受講者によるテキストの輪読および発表により進める。

●到達目標

- 1 地方自治の理念や制度を理解し、主体的に行動する力を涵養する。
- 2 地方自治が直面する課題の解決に向けて幅広く社会で活躍できる専門性を身につける。

●授業計画

- 第1回 環境政策とリサイクル
- 第2回 福祉政策と健康
- 第3回 子育て支援と教育
- 第4回 防災政策と安全
- 第5回 第1回から第4回までの振り返りと考察
- 第6回 自治体の組織管理
- 第7回 財政運営と財政改革
- 第8回 職員の職務と人事管理
- 第9回 行政統制と自治体改革
- 第10回 第6回から第9回までの振り返りと考察
- 第11回 住民と自治体
- 第12回 コミュニティの自治と協働
- 第13回 住民運動と市民参加
- 第14回 第11回から第13回までの振り返りと考察
- 第15回 1年間のまとめ

●事前学習

テキストの該当箇所を読み、自分の担当箇所のレジュメを作成する。
各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

メモ等をもとに授業ノートを整理すること。
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%。

●テキスト

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版。2020年。

※受講生の研究分野や関心にもとづき、テキストを変更することもあります。テキストは事前に購入せず、決定してから購入して下さい。

●参考書・参考資料等

必要に応じて、随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中、毎週水曜日 9:30～10:20（7404 研究室）。

表象文化史特別演習 A (春学期／2 単位) 松友 知香子

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

表象文化史特論 A・B で学んだことを基礎として、修士論文の指導を行う。それぞれのテーマに応じて、先行研究や資料を読み込み、演習での議論を通じて、独自のテーマを提起し、実証的な論文を執筆する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 研究計画の確認

第 3 回 研究進捗状況の報告 (1)

第 4 回 研究進捗状況の報告 (2)

第 5 回 研究進捗状況の報告 (3)

第 6 回 研究進捗状況の報告 (4)

第 7 回 研究進捗状況の報告 (5)

第 8 回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第 9 回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

修士論文のテーマを深めるべく、様々な資料を渉猟する。

各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

議論した事柄について整理し、問題点をより明確にしておく。

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点、ディスカッションの参加度、修士論文で評価する。

●テキスト

参考となるテキストを授業中に配布する。

●参考書・参考資料等

別途、参考資料を授業中に配布する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:00～13:00 7520 研究室。

表象文化史特別演習 B (秋学期／2 単位) 松友 知香子

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

表象文化史特論 A・B で学んだことを基礎として、修士論文の指導を行う。それぞれのテーマに応じて、先行研究や資料を読み込み、演習での議論を通じて、独自のテーマを提起し、実証的な論文を執筆する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第 1 回 研究成果の報告

第 2 回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第 3 回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第 4 回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第 5 回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第 6 回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第 7 回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第 8 回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第 9 回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

修士論文のテーマを深めるべく、様々な資料を渉猟する。

各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

議論した事柄について整理し、問題点をより明確にしておく。

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点、ディスカッションの参加度、修士論文で評価する。

●テキスト

参考となるテキストを授業中に配布する。

●参考書・参考資料等

別途、参考資料を授業中に配布する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:00～13:00 7520 研究室。

異文化コミュニケーション特別演習 A (春学期／2単位) 久野 弓枝

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

- ・受講者の関心に基づき先行研究を検討しテーマを策定する
- ・修士論文に必要な調査と作成技法を指導する

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表と報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

使用しない。

●参考書・参考資料等

必要に応じてその都度紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、研究室 7717 研究室で対応します。

事前にメール等で連絡をお願いします。

y_kuno@sapporo-u.ac.jp。

異文化コミュニケーション特別演習 B (秋学期／2単位) 久野 弓枝

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

修士論文の進捗状況を報告してもらい、それについて助言を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表と報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

使用しない。

●参考書・参考資料等

必要に応じてその都度紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、研究室 7717 研究室で対応します。

事前にメール等で連絡をお願いします。

y_kuno@sapporo-u.ac.jp。

身体文化特別演習 A

(春学期／2単位)

瀧元 誠樹

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

「スポーツの現在について考える」をテーマに、歴史や社会、環境がどのようにスポーツへ影響を与えているのか、逆にスポーツが歴史や社会、環境にどのように影響を与えているのかを考えていくことが大きな目的となる。そこから受講生の関心に沿った個別のテーマを再考し、研究計画を立て直し、研究に取り組む。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

テキストを読み、用語解説・要約・私見考察によるレジュメを作成して授業準備をする。

各回約6時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業内容を振り返り、レジュメやノートの整理をし、修士論文執筆に活かす。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%。

●テキスト

稲垣正浩他『近代スポーツのミッションは終わったか 身体・メディア・世界』：平凡社、2009

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の昼休み、7313研究室にて対応する。

身体文化特別演習 B

(秋学期／2単位)

瀧元 誠樹

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

受講生の取り組んでいる修士論文テーマを中心に、関連領域のテキスト講読やディスカッションをしていく。修士論文作成にあたっては、テーマが拡散することは好まれないけれども、むしろ本演習においては思考の幅が狭まらず視野が広がるようにしていきたい。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

レジュメを作成し、授業準備する。

各回約6時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業内容を振り返り、修士論文執筆に活かす。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点100%。

●テキスト

適宜、紹介する。

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の昼休み、7313研究室にてする。

日本文学特別演習 I A

(春学期／2単位)

荒木 奈美

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

修士論文完成に向け、より実際の指導をすることを主たる目的とする。すでに研究主題が定まっている院生を対象とし、論文としてまとめたい内容を具体的かつ効果的に記述するための技法について学ぶ。今年度は宮沢賢治を中心に扱う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

次週扱う箇所を読み、読書レポートを書いてくる。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業を通して考えたことなどを授業レポートとしてまとめておく。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

毎回の授業で課すミニレポート6割、およびまとめの回に課す、口頭発表4割を合わせた総合評価とする。

●テキスト

授業ごとに指示する。

●参考書・参考資料等

参加者の話し合いの内容に応じて、参考資料を授業ごとに準備・配布する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

毎週火曜日-木曜日 12:30-12:50 (要事前連絡) 7510 研究室

日本文学特別演習 I B

(秋学期／2単位)

荒木 奈美

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

修士論文完成に向け、より実際の指導をすることを主たる目的とする。春学期で得た知見をもとに、論文添削指導が中心となる。添削指導に当たっては、内容に応じて論文内容を深めるための課題を課すこともある。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

計画書に従い、翌週までに論文を執筆する。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

添削指導内容を踏まえ、翌週までに論文を訂正する。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

毎回の授業で課す論文6割、およびまとめの回に課す、口頭発表4割を合わせた総合評価とする。

●テキスト

必要に応じ、授業ごとに指示する。

●参考書・参考資料等

参加者の話し合いの内容に応じて、参考資料を授業ごとに準備・配布する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

毎週火曜日-木曜日 12:30-12:50 (要事前連絡) 7510 研究室

日本文学特別演習Ⅱ A (春学期／2単位) 田中 幹子

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

平安文化について歴史的側面から文学を読み解く。
—平安文学作品について—

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

平安王朝期についての歴史的事実を予習。
各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

毎回学んだことをA4版1枚にまとめる。
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

各回の担当者のプレゼンと発表資料6割、レポート4割。
レポート内容は、修士論文を念頭にテーマを決める。

●テキスト

小学館日本古典新全集『源氏物語』

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

水曜日昼休み 於研究室。

日本文学特別演習Ⅱ B (秋学期／2単位) 田中 幹子

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

平安文化について制度・風習の側面から文学を読み解く。
—源氏物語について—

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

平安王朝期の政治・婚姻について調べておく。
各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

毎回学んだことをA4版1枚にまとめる。
(修士論文訂正箇所及び補充)
各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

修士論文を一章一節ごとに提出。その結果により評価する。

●テキスト

小学館日本古典新全集『源氏物語』

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

水曜日昼休み 於研究室。

日本語特別演習 A

(春学期／2単位)

杉山 暦

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

日本語学、日本語教育学的なアプローチから、現代日本語の研究手法を学ぶ。また、関連文献を詳細に読み込み、その問題点を発見するとともに、自らの研究テーマを決定し、考察を開始する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

修士論文の完成に向けて毎回論文作成をすすめ、問題点や疑問点を明らかにしつつ研究報告の準備をすること。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

疑問点・問題点を修正しながら、修士論文を執筆すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

発表内容・研究内容の総合評価。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7503 研究室にて対応します。事前にご連絡ください。

日本語特別演習 B

(秋学期／2単位)

杉山 暦

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

日本語特別演習 A での検討・考察に修正を加えながら、修士論文の完成を目指す。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

修士論文の完成に向けて毎回論文作成をすすめ、問題点や疑問点を明らかにしつつ研究報告の準備をすること。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

疑問点・問題点を修正しながら、修士論文を執筆すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

発表内容・研究内容の総合評価。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7503 研究室にて対応します。事前にご連絡ください。

比較文化特別演習 I A

(春学期／2単位)
張 偉雄

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

比較文学・比較文化、異文化コミュニケーション、翻訳研究の角度で研究計画の作成に理論と研究方法を提示する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

資料の熟読、発表の準備をしておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

提示された課題を完成すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究計画による。

●テキスト

プリント

●参考書・参考資料等

井上健編『翻訳文学の視界』思文閣出版、2012。

●備考

●オフィスアワー

木曜日 12:10~13:00 研究室

比較文化特別演習 I B

(秋学期／2単位)
張 偉雄

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

比較文学・比較文化、異文化コミュニケーション、翻訳研究の理論と研究方法に基づいて研究論文の作成を指導する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

資料の熟読、発表の準備をしておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

提示された課題を完成すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究論文の進展による。

●テキスト

プリント

●参考書・参考資料等

丸山真男、加藤周一『翻訳と日本の近代』岩波書店、1998

●備考

●オフィスアワー

木曜日 12:10~13:00 研究室

比較文化特別演習Ⅱ A

(春学期／2単位)
小笠原 はるの

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

コミュニケーションや文化学研究の理論や方法論に基づいて研究計画たて、調査と執筆を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

資料の熟読、発表の準備をしておくこと。

各回約 10 時間の事前学習を要する。

●事後学習

提示された課題を完成すること。

各回約 10 時間の事後学習を要する。

●成績評価

修士論文の進捗状況および論文内容 100%。

●テキスト

必要に応じて紹介する。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

メール等で事前にアポイントメントをとったうえで、調整。

連絡先: hogasa@sapporo-u. ac. jp

比較文化特別演習Ⅱ B

(秋学期／2単位)
小笠原 はるの

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

コミュニケーションや文化学研究の理論と研究方法に基づいて研究論文の作成を指導する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

資料の熟読、発表の準備をしておくこと。

各回約 10 時間の事前学習を要する。

●事後学習

提示された課題を完成すること。

各回約 10 時間の事後学習を要する。

●成績評価

修士論文の進捗状況および論文内容 100%。

●テキスト

必要に応じて紹介する。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

メール等で事前にアポイントメントをとったうえで、調整。

連絡先: hogasa@sapporo-u. ac. jp

比較歴史特別演習 I A

(春学期／2単位)
高瀬 奈津子

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

本演習は中国北朝隋唐史分野で修士論文を作成しようとする者を対象とする。

参加者の研究テーマをもとに、ある時代の通史を把握するために、おもに政治史を中心とする研究史を数回発表する。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

毎回、論文の進捗状況をまとめた資料を作成すること。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

報告の結果の「振り返り」を行い、次回の授業の時に「振り返り」をどう反映したか、報告できるようにすること。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究発表により評価を行う。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:20～12:50 7523 研究室。

比較歴史特別演習 I B

(秋学期／2単位)
高瀬 奈津子

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

本演習は中国北朝隋唐史分野で修士論文を作成しようとする者を対象とする。論文の完成に向けた作業を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

毎回、論文の進捗状況をまとめた資料を作成すること。

各回約1時間の事前学習を要する。

●事後学習

報告の結果の「振り返り」を行い、次回の授業の時に「振り返り」をどう反映したか、報告できるようにすること。

各回約1時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究発表により評価を行う。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

随時、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中毎週火曜日 12:20～12:50 7523 研究室。

比較歴史特別演習Ⅱ A

(春学期／2単位)
金 誠

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

歴史学の方法・理論を用いて、朝鮮近現代史分野で修士論文執筆の計画を立て、研究発表を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

論文の進捗状況、あるいは先行研究、論文の分析枠組みについてレジメを作成する。

毎回3時間程度の事前学習を要する。

●事後学習

指導内容やディスカッションでのフィードバックを踏まえて報告の修正を行う。

毎回3時間程度の事後学習を要する。

●成績評価

研究の進捗状況、研究発表での評価 (100%)

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義後に対応します。それ以外はメールにて連絡の上、面談時間を設定します (makoto-k@sapporo-u.ac.jp)

比較歴史特別演習Ⅱ B

(秋学期／2単位)
金 誠

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

歴史学の方法・理論を共有し、朝鮮近現代史分野での修士論文執筆の指導を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

論文の進捗状況、あるいは先行研究、論文の分析枠組みについてレジメを作成する。

毎回3時間程度の事前学習を要する。

●事後学習

指導内容やディスカッションでのフィードバックを踏まえて報告の修正を行う。

毎回3時間程度の事後学習を要する。

●成績評価

研究論文での評価 (100%)

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義後に対応します。それ以外はメールにて連絡の上、面談時間を設定します (makoto-k@sapporo-u.ac.jp)

企業文化の国際比較特別演習 A（春学期／2単位） 汪 志平

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

演習では、企業文化の国際比較特論で学んだ研究領域や理論をもとに、教員の許可を得てから早期に修士論文のテーマ、対象、方法を決め、年間スケジュールを決め、それに沿って研究を進めてもらう。

数回、進み具合と論文内容についての報告が求められ、それに対して討論や助言がなされる。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告（1）

第4回 研究進捗状況の報告（2）

第5回 研究進捗状況の報告（3）

第6回 研究進捗状況の報告（4）

第7回 研究進捗状況の報告（5）

第8回 修士論文執筆内容の指導（1）

第9回 修士論文執筆内容の指導（2）

第10回 修士論文執筆内容の指導（3）

第11回 修士論文執筆内容の指導（4）

第12回 修士論文執筆内容の指導（5）

第13回 修士論文執筆内容の指導（6）

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

授業で指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7703 研究室にて対応します。

企業文化の国際比較特別演習 B（秋学期／2単位） 汪 志平

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

修士論文テーマを中心に、関連領域の書物や論文を購読していく。

修士論文の完成に向け、より実際的な指導をし、論文添削指導が中心となる。内容に応じて、課題を課すこともある。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導（1）

第3回 修士論文執筆内容の指導（2）

第4回 修士論文執筆内容の指導（3）

第5回 修士論文執筆内容の指導（4）

第6回 修士論文執筆内容の指導（5）

第7回 修士論文執筆内容の指導（6）

第8回 修士論文中間発表会の準備（1）

第9回 修士論文中間発表会の準備（2）

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ（1）

第14回 修士論文の仕上げ（2）

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

授業で指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義終了後、7703 研究室にて対応します。

事業創造論特別演習 A

(春学期／2単位)

井上 祐輔

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

修士論文の作成にあたり、論文の基本的マナー、フレームワークの構築、資料収集法、研究倫理等を指導し、中間報告に向けたアウトラインができる状態をつくる。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

自身の研究を進めていくために、必要な文献を熟読すること、またその内容についてまとめて報告すること。各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究進捗状況の発表の内容により評価。

●テキスト

適宜、紹介する。

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7721 研究室にて。

事業創造論特別演習 B

(秋学期／2単位)

井上 祐輔

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

修士論文の執筆に向けた具体的指導を行う。執筆過程での補足の現地調査や資料収集法、研究倫理の指導も併せて行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

自身の研究を進めていくために、必要な文献を熟読すること、またその内容についてまとめて報告すること。各回約 2 時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約 2 時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

適宜、紹介する。

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7721 研究室にて。

地域活性化特別演習 A

(春学期／2単位)
中山 健一郎

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

修士論文の作成にあたり、論文の基本的マナー、フレームワークの構築、資料収集法等を指導し、中間報告に向けたアウトラインができる状態をつくる。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

研究進捗状況の発表の内容により評価。

●テキスト

適宜、紹介する。

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7413 研究室にて。

地域活性化特別演習 B

(秋学期／2単位)
中山 健一郎

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

修士論文の執筆に向けた具体的指導を行う。執筆過程での補足の現地調査や資料収集法の指導も併せて行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業での発表・発言内容、平常点で総合的に評価する。

●テキスト

適宜、紹介する。

●参考書・参考資料等

適宜、紹介する

●備考

特になし。

●オフィスアワー

授業終了後、7413 研究室にて。

地域経済学特別演習 A

(春学期／2単位)
武者 加苗

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

受講者の関心に応じた地域経済学のテーマを取り上げ、修士論文完成に向けての指導を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

中間報告のプレゼンテーション 100%。

●テキスト

受講者の選んだテーマに準じて指示する。

●参考書・参考資料等

受講者の選んだテーマに準じて指示する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

火曜 15 時～17 時。

地域経済学特別演習 B

(秋学期／2単位)
武者 加苗

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

受講者の関心に応じた地域経済学のテーマを取り上げ、修士論文完成に向けての指導を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

各回約3時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

期末報告のプレゼンテーション 100%。

●テキスト

受講者の選んだテーマに準じて指示する。

●参考書・参考資料等

受講者の選んだテーマに準じて指示する。

●備考

特になし

●オフィスアワー

火曜 15 時～17 時。

マーケティング特別演習 A (春学期／2単位) 角田 美知江

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

企業のマーケティング戦略について研究していく。特に近年注目されている、地域中小企業の事業承継やスピンオフ企業について、マーケティング戦略の視点から考察し、研究テーマを設定したうえで、修正論文を作成していく。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

担当する課題を調べ、レジュメを作成し、パワーポイントで発表できるようにする。また、関連する事項について調べ、発表時の質問に備える。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

自身の研究を進めていくために、必要な文献を熟読すること、またその内容についてまとめて報告すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業時の発言、課題提出、発表 50%。レポート提出 50%。

●テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

●参考書・参考資料等

講義時に紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

月曜日 (16:00～18:00) 中央棟 7 階 7720 研究室

連絡先: tsunoda@sapporo-u.ac.jp 事前にメールでアポイントをとること。

マーケティング特別演習 B (秋学期／2単位) 角田 美知江

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

企業のマーケティング戦略について研究していく。特に近年注目されている、地域中小企業の事業承継やスピンオフ企業について、マーケティング戦略の視点から考察し、研究テーマを設定したうえで、修正論文を作成していく。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

担当する課題を調べ、レジュメを作成し、パワーポイントで発表できるようにする。また、関連する事項について調べ、発表時の質問に備える。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

自身の研究を進めていくために、必要な文献を熟読すること、またその内容についてまとめて報告すること。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

授業時の発言、課題提出、発表 50%。レポート提出 50%。

●テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

●参考書・参考資料等

講義時に紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

月曜日 (16:00～18:00) 中央棟 7 階 7720 研究室

連絡先: tsunoda@sapporo-u.ac.jp 事前にメールでアポイントをとること。

企業経営と財務諸表特別演習 A（春学期／2単位） 岩橋 忠徳

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

企業経営との関連から、当該企業によって公表される財務諸表を作成するための原則や基準についての修士論文を執筆するための指導を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告（1）

第4回 研究進捗状況の報告（2）

第5回 研究進捗状況の報告（3）

第6回 研究進捗状況の報告（4）

第7回 研究進捗状況の報告（5）

第8回 修士論文執筆内容の指導（1）

第9回 修士論文執筆内容の指導（2）

第10回 修士論文執筆内容の指導（3）

第11回 修士論文執筆内容の指導（4）

第12回 修士論文執筆内容の指導（5）

第13回 修士論文執筆内容の指導（6）

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

講義での報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

テキストについては受講者と相談の上、決定する。

●参考書・参考資料等

必要となる参考書・参考資料等については適宜、授業で紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週木曜日 12:10～13:00 中央棟7階7715研究室。

上記の時間帯以外で面談を希望の方は、E-mailにて事前連絡を行うこと。

企業経営と財務諸表特別演習 B（秋学期／2単位） 岩橋 忠徳

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

企業経営との関連から、当該企業によって公表される財務諸表を作成するための原則や基準についての修士論文を提出するための指導を行う。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導（1）

第3回 修士論文執筆内容の指導（2）

第4回 修士論文執筆内容の指導（3）

第5回 修士論文執筆内容の指導（4）

第6回 修士論文執筆内容の指導（5）

第7回 修士論文執筆内容の指導（6）

第8回 修士論文中間発表会の準備（1）

第9回 修士論文中間発表会の準備（2）

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ（1）

第14回 修士論文の仕上げ（2）

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

講義での報告をもとに平常点100%で評価する。

●テキスト

テキストについては受講者と相談の上、決定する。

●参考書・参考資料等

必要となる参考書・参考資料等については適宜、授業で紹介する。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週木曜日 12:10～13:00 中央棟7階7715研究室。

上記の時間帯以外で面談を希望の方は、E-mailにて事前連絡を行うこと。

情報科学特別演習 A

(春学期／2単位)

伊藤 公紀

●テーマ

研究計画を確認し、修士論文を執筆する。

●授業概要

研究テーマとして選定した社会現象について、マルチエージェントシミュレーションを適用し、その事象のメカニズムの解明をめざす。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 研究計画の確認

第3回 研究進捗状況の報告 (1)

第4回 研究進捗状況の報告 (2)

第5回 研究進捗状況の報告 (3)

第6回 研究進捗状況の報告 (4)

第7回 研究進捗状況の報告 (5)

第8回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第9回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第10回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第11回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第12回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第13回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第14回 春学期の成果報告

第15回 夏期休暇中の研究予定確認

●事前学習

研究テーマに関わる参考文献の調査やマルチエージェントシミュレーションの設計・コーディング等を行っておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業等で受けた指導内容に沿って、参考文献の調査やマルチエージェントシミュレーションの設計・コーディングを行っておくこと。

各回約2時間の事後学習を要する。

●成績評価

平常点およびレポート内容により評価する。なお、出席が 2/3 以上に満たない者は不合格とする。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週火曜日 12:15～12:50 7716 研究室。

情報科学特別演習 B

(秋学期／2単位)

伊藤 公紀

●テーマ

研究テーマに則った修士論文を提出する。

●授業概要

研究テーマとして選定した社会現象について、マルチエージェントシミュレーションを適用し、その事象のメカニズムの解明をめざす。

●到達目標

文化学の高度な理解と研究を踏まえつつ、研究テーマにおける専門性を深めた修士論文を完成する。

●授業計画

第1回 研究成果の報告

第2回 修士論文執筆内容の指導 (1)

第3回 修士論文執筆内容の指導 (2)

第4回 修士論文執筆内容の指導 (3)

第5回 修士論文執筆内容の指導 (4)

第6回 修士論文執筆内容の指導 (5)

第7回 修士論文執筆内容の指導 (6)

第8回 修士論文中間発表会の準備 (1)

第9回 修士論文中間発表会の準備 (2)

第10回 修士論文中間発表会予行

第11回 中間発表会における問題点の整理

第12回 中間発表会における問題点修正

第13回 修士論文の仕上げ (1)

第14回 修士論文の仕上げ (2)

第15回 修士論文提出の最終報告

●事前学習

研究テーマに関わる参考文献の調査や論文執筆、マルチエージェントシミュレーションの設計・コーディング等を行っておくこと。

各回約2時間の事前学習を要する。

●事後学習

授業等で受けた指導内容に沿って、論文の執筆やマルチエージェントシミュレーションの設計・コーディングを行っておくこと。

各回約3時間の事後学習を要する。

●成績評価

修士論文の内容により評価する。なお、出席が 2/3 以上に満たない者は不合格とする。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

●オフィスアワー

講義期間中の毎週火曜日 12:15～12:50 7716 研究室。